


研究紀要第14号

未来を拓く力を育成する
「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

〈3か年継続研究：3年次〉

平成21年3月



留萌管内教育研究所

発刊に当たって

近年のめまぐるしく変わる社会情勢の下、学校には益々大きな期待が寄せられていると考えられます。教育の営みは、この教育を取り巻く状況が時代とともにいかに変化しようとして、学校（教職員）・家庭・地域社会の信頼関係が基盤になっていることには変わりありません。また、子供の教育効果はこの三者の連携によって、より強固なものになるものと思います。

昔から「国家百年の大計は教育にあり」という言葉を聞きます。教育の結果はすぐには見えませんが、私たち教育関係者はじめ、家庭や地域社会もこの言葉をかみしめ、将来に責任をもちたいものです。

さて、いよいよ小学校から新学習指導要領による移行措置が始まります。子供たちに新しい教育課程のもとで生き生きと活動する姿を求めるためには、普段の教育活動を広い視野から見つめ直し、多方面との実践交流を進めることが必要です。直接子供を教える教員の授業観、指導観、教材観の中に新しい流れを取り入れ、研修を通して考察を加え、独断的なものに陥る危険性を回避することが大切ではないでしょうか。

留萌管内教育研究所では、この度、3年間の継続研究をまとめて研究紀要第14号として発刊する運びとなりました。

当研究所の研究員は研究主題の下、研究協力校や研究協力員の思いを共有しながら研究のまとめを行ってきました。テーマに沿って授業を作り上げ検証を終えたときの双方の満足感や達成感は大きなものです。この研究が、各学校の授業づくりに少しでも役立つことができれば研究員の苦労が報われます。忙しい毎日ですが是非目を通していただきますようお願いいたします。

私たちは、今回得ることができた貴重な実践資料をもとに成果と課題を整理し、次の研究に取り組んで参ります。今後も協力校、協力員による検証授業とともに研究を進めて参りたいと思いますので、検証授業の際には多数参加していただき貴重なご意見をいただければ幸いです。

最後に、この研究に深いご理解とご支援をいただいた留萌教育局、留萌管内市町村教育委員会、そして、全力を傾注して研究に加わられた研究協力員、研究協力校の皆様にご心から感謝申し上げますとともに深く敬意を表します。

平成21年3月

留萌管内教育研究所

所長 檜 森 博 仁

目 次

発刊に当たって

留萌管内教育研究所長 檜 森 博 仁

I	研究概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	研究主題の押さえ	
4	目指す子供像	
5	研究の仮説と視点	
6	研究の計画	
7	研究の構造	
II	本年度の研究	9
1	道徳の時間の指導に関して	
2	特別活動の指導に関して	
3	総合的な学習の時間の指導に関して	
III	研究協力校・研究協力員の実践	16
1	身近な出来事から信頼・友情に迫る「心の教育」の実践 天塩町立天塩小学校 中村繁仁 教諭	
2	職場体験学習を想定し、ロールプレイを活用した「心の教育」の実践 留萌市立港南中学校 石垣友和 教諭	
3	農村体験学習の活動を生かした「心の教育」の実践 留萌市立沖見小学校 西山洋平 教諭	
IV	研究の成果と課題	45
※	参考文献リスト	
	～道徳教育に関するアンケート調査の結果と考察～	48

あとがき

I 研究の概要



1 研究主題

5 研究の仮説と視点

2 研究主題設定の理由

6 研究の計画

3 研究主題の押さえ

7 研究の構造

4 目指す子供像

1 研究主題

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

2 研究主題設定の理由

今日的な学校教育の課題から

現代に生きる子供たちは、社会の激しい変化によって将来への展望をもちにくくなっている。その背景には、人間性や社会性をはぐくむ上で重要となる自然体験・社会体験の機会や場の減少、倫理観や社会性の不足、規範意識の低下、自立の遅れ等がある。それらは、学校における暴力行為やいじめ、不登校といった憂慮すべき問題に、大きな影響を与えていると考えられる。また最近では、いじめに端を発するとされる中学生の自殺や、それにかかわる諸問題についても、早急かつ具体的な手立てが求められている。このような学校教育が抱える問題を抑止し、また改善へと導くため、豊かな心をはぐくむための教育が求められている。

これまでの研究及び管内の実態から

本研究所では、これまで4次に及ぶ共同研究を行ってきたが、これらはいずれも学習指導に重点を置いて研究を進め、様々な成果を収めてきた。また、研究を推進するにあたり、各教育機関の協力の下、管内教育の実態に照らし合わせ、教育現場で生きる実践を行うべく、研究主題を設定してきた。

今回新たな研究に取り組むに当たり、これまで推進してきた「学びの教育」と両輪を成すといえる「心の教育」の充実を図りたいと考えた。同時に、心の教育の基礎となる道徳教育に関するアンケートを管内において実施したところ、研究の推進を求める意見が多く聞かれた（※巻末付録『道徳教育に関するアンケート調査』の結果と考察参照）。管内教育の一層の充実のため、本研究主題の下、研究を推進したい。

道研連研究主題とのかわりから

北海道教育研究所連盟（道研連）では、今、学校や教師は何をすべきか、その具体的な方策について模索すべく、研究主題を「『確かな学力』と『豊かな心』をはぐくむ新しい学校教育の創造」と設定して、3か年継続研究（3年次）を進めている。次のページのように3つの部会を組織し、主題の解明に向け研究を重ねている。「心の部会」では、「豊かな心」をはぐくむために、自らを知り自らを高めようとする中で将来に向けて自己の在り方や生き方を確立し、また他とのかわりについて考え集団や社会に貢献しようとする中で共に支え合い生きていく力を身に付けさせることが大切であるという基本的な考えを打ち出している。本研究を推進することにより、道研連研究主題解明の一翼を担うことができると考える。

【道研連第12次共同研究の全体像】

「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむ
新しい学校教育の創造

「確かな学力」の向上を図る
学習指導の在り方に関する研究

学びの部会

「豊かな人間性」を育成する
教育活動の在り方に関する研究

心の部会

学校づくりの部会

特色ある教育活動の展開と教員
の資質・能力の向上に関する研究

3 研究主題の押さえ

「未来を拓く
力」とは

現代の子供たちには、「未来を拓く力」が求められている。「未来を拓く力」とは、現代社会の激しい変化に対応し、常に前向きな姿勢で、未来に夢や希望をもち、自らの人生や未来を切り拓いていく力である。

「心の教育」
とは

人が未来に希望をもって生きるためには、それぞれの理想像や目標を明確にし、それを実現するための実践力を身に付けることが必要である。その実践力を養うために、重要な要素となるのが「豊かな心」である。「豊かな心」とは、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さ、生命や人権を尊重する態度などの様々な感性であり、これらの力を育てるのが道徳教育である。

「自分を見つ
める」とは

自らの力で未来を切り拓くには、自己の在り方や生き方を確立しなければならない。その第一歩として必要となるのは、自己を的確に理解し、自己を肯定することである。自分のもつ個性とはどのようなものか、自分の抱える問題は何なのか、自分はどのような存在でありたいのか、そのような自己理解を深め、自己肯定感を高めることで、積極的に自分の生き方や在り方を探究していこうとする姿勢を身に付けることができる。

「他と豊かに
かかわる」と
は

現代の社会や学校が抱える問題、すなわちニートの増加や少年犯罪の頻発、いじめや不登校等の問題の背景には、他者と豊かにかかわり共に生きていく心や方法が身に付けられないという状況がある。良好な人間関係を築くことができなかつたり、互いの人権を尊重できなかつたりする中では、共に支え合い高め合うことは困難である。

互いの思いや意見を適切に伝え合う力を身に付けるためには、集団活動を行う中で、一人一人が自分を主張し、他を認め、生き生きと生活できる風土を形成することが求められる。その中で、個々の子供が心の充実や存在意義を実感できる活動や互いの考えや意見を豊かに表現し合う活動など、集団活動の工夫について研究を進めることが求められる。

また、広い意味での他とのかかわりとして、家庭や地域社会、自然とのかかわりが考えられる。その過程においては、自然体験やボランティア活動等の体験活動が重要となってくる。体験を伴った活動は、自然や美しいものに感動する心や感性、生命を大切にする心や異質なものを尊重し受け入れる寛容な精神を、直接的にはぐくむことができるためである。また、それらの活動を通じ主体的に物事に取り組む姿勢を身に付けることも重要である。自ら課題を見付け、学び考え、問題を解決する力を養うことが、未来を切り拓くことにつながる。そのような観点から、地域環境を生かした広い活動の場において、連携を図りながら活動を進めることが必要となる。

「心の教育」
にかかわる各
領域の連携に
ついて

「心の教育」は、道徳の時間のみならず、特別活動や総合的な学習の時間、各教科の学習においても、意図的に実践し、連携を図ることが大切である。それぞれが有機的に絡み合い、補充・深化・統合し合うことによって、その教育的効果は大きくなる。自己を理解した上で他とかかわり、再び自己を見つめ直すことで深い内省が生まれたり、広い視野で様々なものとかかわる中で、道徳性が発揮され更なる深化を遂げたり、あるいは多様な体験活動の中で見付けた自己の目標を達成するため、内なる対話を繰り返したりと、各領域の効果的な連携を図ることは重要な意味をもつ。



(4) 年次計画

視点1
道徳の時間の指導に関して

視点2
特別活動の指導に関して

視点3
総合的な学習の時間の指導に関して

平成18年度（1年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

深く心に響き、自己を振り返る中で、道徳的価値をはぐくむ資料の開発・工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

①学校行事や学級活動における集団活動の工夫

個性を大切にしながら集団の一員として生活できる実践的態度をはぐくむ集団活動の工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

①地域環境を生かした体験活動の工夫

地域や学校環境の特色を生かし、他と触れ合う中で未来を拓く力をはぐくむ体験活動の工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

平成19年度（2年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

②指導体制・方法の工夫

自他の経験や考え方を生かし活動する中で、道徳的価値をはぐくむ指導の工夫

- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

①学校行事や学級活動における集団活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

自らの考えを表現し集団で考えを深める中で、生活にはたらく実践力を養う指導の工夫

- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

①地域環境を生かした体験活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

地域の人材や環境を生かし探究活動を行う中で、自己の生き方を考える態度をはぐくむ指導の工夫

- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

平成20年度（3年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

②指導体制・方法の工夫

③他領域との関連付けを図った指導の工夫

他領域との関連付けを図りながら、道徳の時間において道徳的価値の深化・補充・統合を目指す指導の工夫

①学校行事や学級活動における集団活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

③他領域との関連付けを図った指導の工夫

他領域との関連付けを図り、特別活動におけるグループ活動を効果的に行うことで道徳的実践力を高める指導の工夫

①地域環境を生かした体験活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

③他領域との関連付けを図った指導の工夫

他領域との関連付けを図った体験活動を行う中で、自己理解を深め、自らの理想を実現しようとする態度を養う指導の工夫

未来を拓く力

(5) 今年度の計画

	共 同 研 究	道 研 連 共 同 研 究
4月	・年間計画立案	・道研連定期総会 【4月18日(金)】
5月	・第6回合同研究会議	
6月	・今年度の研究に関する理論の深化	
7月	・検証授業にかかわる計画推進及び理論研究	・北海道教育研究所連盟夏季研究所員研修会 【7月28日(月)～29日(火)】
8月	・検証授業指導案検討	
9月	・検証授業 ・検証授業の成果と課題の検討 ・検証授業指導案検討	・第63回北海道教育研究所連盟研究発表大会(旭川大会) 【9月18日(木)～19日(金)】
10月	・検証授業 ・検証授業の成果と課題の検討 ・検証授業指導案検討	
11月	・検証授業 ・検証授業の成果と課題の検討	
12月	・第7回合同研究会議	
1月	・研究紀要編集作業	
2月	・第8回合同研究会議	
3月	・研究紀要第14号発刊	

7 研究の構造

研究主題

社会環境の
変化や生徒
の実態

未来を拓く力を育成する 『心の教育』の実践的研究

地域や家庭
・管内教育
機関の要請

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

目指す子供像

- ◇自らを知り、主体的によりよく生きようとする子供
- ◇自らの個性を生かしながら、他者と支え合い生きようとする子供
- ◇理想の実現に向けて、自らの思いを実践できる子供

道徳の時間

仮説1

道徳の時間において、自己理解を促し自己肯定感を高めるような学習活動を実践することで、道徳的価値の自覚を深めさせ、積極的に自己の在り方や生き方を確立しようとする主体性をはぐくむことができる。

研究内容

- ①心に響く資料の開発・工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

特別活動

仮説2

特別活動において、個性を大切にしながら、集団の一員としての責任を自覚できるような学習活動を行うことで共に支え合って生活しようとする実践的態度をはぐくむことができる。

研究内容

- ①学校行事や学級活動における集団活動の工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

未来を 拓く力

総合的な学習の時間

仮説3

総合的な学習の時間の指導において、子供の実態に応じ、地域や学校環境の特色を生かしながら学習活動を行うことで、自己を実現し、未来を切り拓く実践力をはぐくむことができる。

研究内容

- ①地域環境を生かした体験活動の工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

Ⅱ 本年度の研究



1 道徳の時間の指導に関して

2 特別活動の指導に関して

3 総合的な学習の時間の指導に関して

他領域との関連付けを図った指導の工夫に関して

道徳教育の現状 と今年度の重点

「道徳教育の現状と課題，改善の方向性」（中央教育審議会）の中で，心の教育に関して次のような指摘がなされている。

子どもの心の成長にかかわる現状を見ると，子どもを取り巻く環境の変化，家庭や地域社会の教育力の低下，体験の減少等の中，生命尊重の心の不十分さ，自尊感情の乏しさ，基本的な生活習慣の未確立，規範意識の低下，人間関係を形成する力の低下など，子どもの心の活力が弱っている傾向が指摘されている。また，社会参画への意欲や態度の形成が求められている。

（中略）特に小学校高学年や中学校の段階で，法やきまり，人間関係，生き方など社会的自立に関する学習において，より効果的な指導を行うため，道徳の時間および各教科等それぞれで担うものや相互の関連を踏まえ，指導方法や教材などについて工夫することが必要である。

このような指摘は，今に始まったものではない。生命尊重の心を育成する大切さが叫ばれる中いじめや自殺の報道は続き，自尊感情の乏しさによる不登校児童生徒の増加や勉学意欲の喪失が指摘される。

今学校教育に求められていることは，道徳教育，心の教育を見直し，指導実践を具体的に充実させることである。道徳教育に関する授業時数を確保し，地域や学校の状況，児童生徒の実態に応じて，授業の質を向上させなければならない。

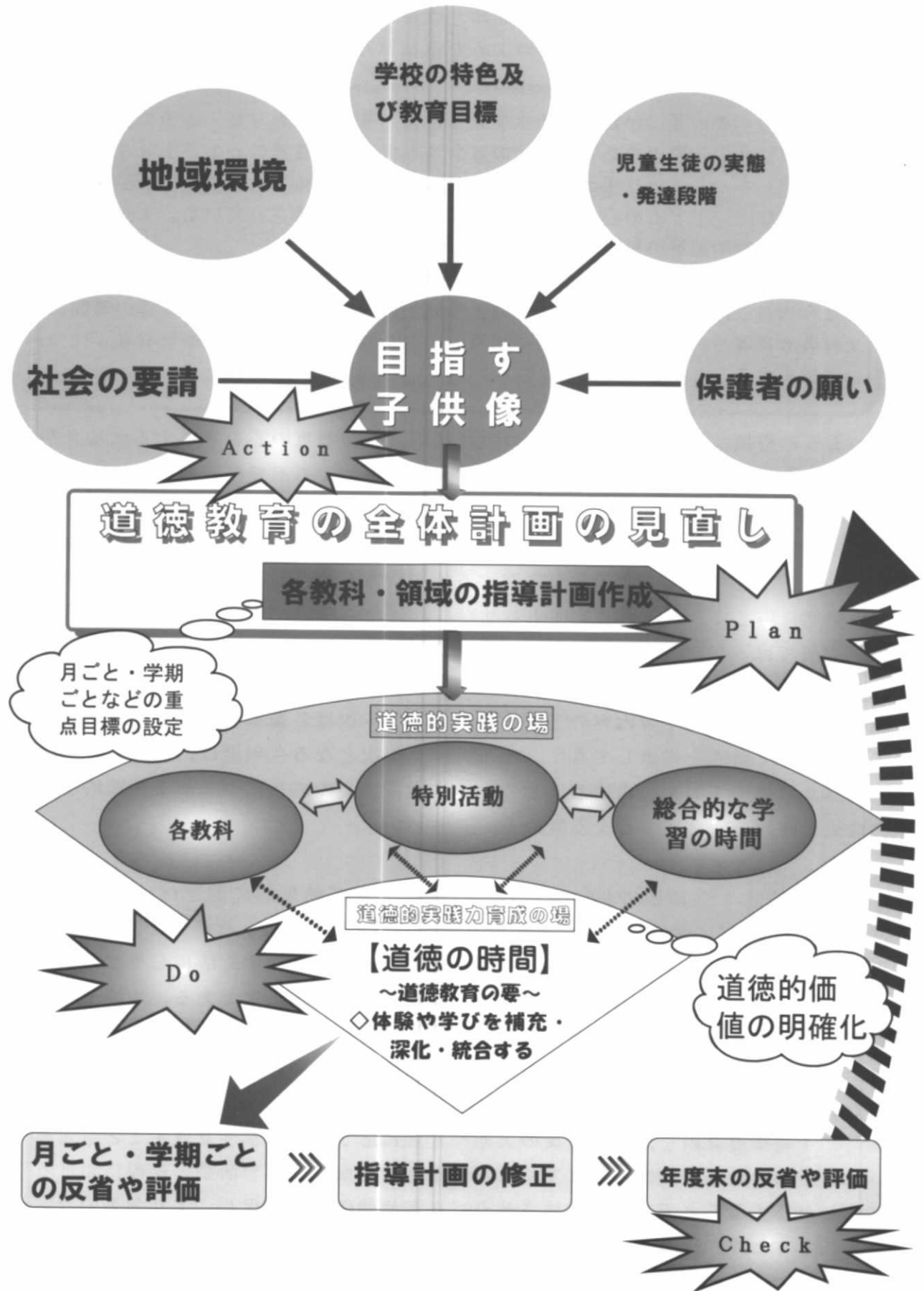
本研究所では，「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究」を研究主題に掲げ，3か年継続研究に取り組んでおり，今年度は3年次のまとめの年である。1年次は各領域の特色を生かした学習内容の工夫を追求し，2年次は各領域における指導体制や方法の工夫について研究を推進してきた。そして，3年次となる今年度は，他領域との関連付けを図った指導の工夫を追求することで，子供たちの心の成長につながる実践的研究を行い，成果と課題を明確にするよう努める。

各領域との関連 付けのために



各領域において行われる道徳教育が効果的に関連付けられるためには，道徳教育の全体計画の見直しが必要である。その上で，道徳の時間，特別活動，総合的な学習の時間などの年間指導計画を分かりやすく活用しやすいものに改善しなければならない。その際に大切なことは，明確化と重点化である。地域や学校の状況，児童生徒の発達段階や実態を踏まえ，身に付けさせるべき道徳的価値を明確にする。その上で，月ごとあるいは学期ごとの重点目標を設定し，同一の時期に同一の道徳的価値を複数の領域で扱うことで，深化・補充・統合を図らなければならない。

また，年間指導計画を，児童生徒の実態や変容に応じてその都度見直すことも重要である。学習活動を通じて新たに見えてくる実態を考慮したり，学習活動の過程における変容を加味したりすることで，身に付けさせるべき道徳的価値も変化し，より効果的な道徳教育を実践するため，指導計画の修正も必要となる。

心の教育の充実を図るために



他領域との関連付けを図った年間指導計画の具体例

月	特別活動	道徳の時間	総合的な学習の時間
4月	向上心や責任感の伸長を図るとともに集団生活の意義を理解させる		
	① 1学期の目標づくり ② 学級目標づくり ③ 前期学級組織づくり ④ 話し合い活動について考えよう □ 始業式・入学式 ◇ 新入生歓迎集会	① 向上心や個性の伸長 【副「書を読む」1-(5)】 ② 集団の一員としての自覚や愛校心の育成 【副「校歌は好きかい」4-(7)】 ③ 自主・自律，誠実な心の育成【副「朝」1-(3)】	
5月	信頼や友情，集団生活の向上について望ましい考え方を身に付けさせる		
	⑤ 中堅学年の役割や責任について考えよう ⑥ 体育大会の充実に向け話し合おう ⑦ 係活動について考えよう ◇ 生徒総会	④ 集団生活の向上 【副「チームワーク」4-(1)】 ⑤ 信頼・友情の尊さの理解 【副「ちいちゃんの爪」2-(3)】 ⑥ 励まし合い，高め合う態度の育成 【副「いつも一緒に」2-(3)】	
6月	望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに充実した生き方について考えさせる		
	⑧ 体育大会を通じて学んだことを交流しよう ⑨ 人はなぜ学ぶのか考えよう ⑩ 学習状況を見直そう ⑪ 将来の夢や進路について考えよう □ 体育大会 ◇ 中体連管内大会壮行会	⑦ 公正・公平な態度の育成【副「名誉の失格」4-(4)】 ⑧ 理想をもち実現しようとする態度の育成【副「デンさん」1-(4)】 ⑨ 強い意志をもとうとする心の育成【副「誤差0.2%」1-(2)】 ⑩ 将来へ希望をもち未来を切り拓こうとする態度の育成【参「22世紀のわたし」1-(2)】	
7月	公正・公平に生活し，よりよい社会の実現に努める心を育成する		
	⑫ 1学期を反省し夏休みの計画を立てよう	⑪ 公德心・公共心の育成【副「マリア・ルス号事件」4-(3)】	福祉・ボランティアの学習

<p>⑬差別や平等について考えよう □終業式</p>	<p>⑫差別や偏見のない社会を実現しようとする心の育成 【副「あふれる愛」4-(4)】 ⑬差別を克服しようとする勇氣ある態度の育成 【参「ハンナ・リデルの生涯」4-(4)】</p>	<p>○校区内のバリアフリー設備の調査 ○ボランティア活動の計画立案と実践</p>
--------------------------------	--	---


<p>8月</p>	<p>理想の実現を目指して自己の人生を切り拓こうとする心を育成する</p>	
<p>⑭夏休みの反省と2学期の目標づくり ⑮夢の実現を考えよう □始業式</p>	<p>⑭理想の実現を目指す心の育成 【ノ「自分の人生は自分の手で切り拓こう」1-(4)】 ⑮個性を大切にし充実した人生を追求する態度の育成 【参「真のプロフェッショナル1-(5)】</p>	


<p>9月</p>	<p>社会の一員としての自覚と謙虚に学ぼうとする態度を育成する</p>	
<p>⑯自主研修の充実のためにできることを話し合おう ⑰万人にとって平等で幸福な社会とはどのようなものか考えよう ⑱集団や社会の中の人間関係について考えよう ⑲学校祭の充実に向けて話し合おう</p>	<p>⑯郷土を愛し発展に努めようとする心の育成 【副「ふるさとに想う」4-(8)】 ⑰いろいろなものの方や考え方を理解しようとする態度の育成 【ノ「いろいろな立場があり考えがある」2-(5)】 ⑱他を理解し謙虚に学ぼうとする態度の育成 【副「遠足」2-(5)】</p>	<p>宿泊をともなう自主研修</p> <p>○研修計画の立案 ○研修資料の作成 ○研修の実践 ○レポート作成 ○発表交流</p>


<p>10月</p>	<p>働くことの意義や礼儀、感謝の心の大切さを理解させる</p>	
<p>⑳学校祭を通じて学んだことを交流しよう ㉑人はなぜ働くのか考えよう ㉒進路希望調査</p>	<p>⑲周りの人に対する感謝や思いやりの心の育成 【副「地図のある手紙」2-(2)】 ㉑勤労の尊さや意義の理解 【副「ごみ仲間」4-(5)】</p>	<p>職場体験学習</p> <p>○職業に関する調査活動 ○集団や社会のマナーや礼儀に関する学習</p>

<input type="checkbox"/> 学校祭 <input type="checkbox"/> 生徒総会	②① 奉仕の心と公共心の育成 【ノ「『働く』ということ」4-(5)】 ②② 時と場に応じた礼儀 【副「一枚のはがき」2-(1)】	<input type="checkbox"/> 職場体験の実践 <input type="checkbox"/> 成果や課題などのまとめ活動
---	---	--

11月	生命を尊重し人間として生きる喜びを見いだそうとする態度を育成する	
②③ 心と体の安全について考えよう ②④ 季節ごとの健康管理について意見交流しよう ②⑤ 心と体の成長について考えよう ②⑥ 食生活を見直し意見交流しよう	②③ 苦しみや困難を克服しようとする態度の育成 【副「花に育て」3-(3)】 ②④ 生命を尊重する心の育成 【ノ「かけがえない生命」3-(2)】 ②⑤ 人間として生きる喜びを大切にする心の育成 【副「最後の一葉」3-(3)】 ②⑥ 困難に負けず強く生きようとする態度の育成 【参「目は見えずとも」3-(3)】	

12月	国際的視野を広げようとする態度を育成する	
②⑦ 2学期を反省し冬休みの計画を立てよう ②⑧ 自分たちの住む日本という国について考えを交流しよう ②⑨ 日本と外国の違いについて話し合い考えを深めよう <input type="checkbox"/> 終業式	②⑦ 日本人としての自覚と国際的視野の育成 【副「国際的日本人になるために」4-(10)】 ②⑧ 世界の平和や人類の幸福に貢献しようとする態度の育成 【ノ「世界の平和と人類の幸福を考える」4-(10)】 ②⑨ 伝統を継承し文化を創造しようとする心の育成 【副「歴史の教科書」4-(9)】	

1月	家族や地域の人など、自分を支えてくれる人に対する敬愛の念を培う	
③⑩ 冬休みの反省と3学期の目標づくり ③⑪ 家庭での自分の役割を考えよう <input type="checkbox"/> 始業式	③⑩ 家族の一員としての自覚の育成 【ノ「家族だからこそ」4-(6)】 ③⑪ 家族への敬愛の念の育成 【副「木琴」4-(6)】	

2月	法やきまりを遵守し自他の権利や義務を大切にする態度を育成する	
<p>⑳ 学校のきまりについて考えよう</p> <p>㉑ 社会のマナーや常識について話し合おう</p>	<p>㉒ きまりを遵守し社会の秩序を高める心の育成</p> <p>【副「怒りの救助活動」4-(2)】</p> <p>㉓ 権利と義務を重んじる態度の育成</p> <p>【ノ「縛られたくないのはみんな同じ4-(2)】</p>	
3月	他の人々に対する感謝と思いやりの心を育成する	
<p>㉔ 卒業生に対して自分たちができることを話し合い取り組もう</p> <p>㉕ 1年間を振り返り進級に向けて目標をもとう</p> <p>□卒業式</p> <p>◇卒業生を送る会</p>	<p>㉖ 人に対する感謝と思いやりの心を伝えようとする態度の育成</p> <p>【副「五文字の心」2-(2)】</p> <p>㉗ 友人と励まし合い高め合おうとする態度の育成【参「先輩の姿」2-(3)】</p>	

道徳的価値の重点化と関連付けを図った単元学習の具体例

特別活動	道徳の時間	総合的な学習の時間
働くことの意義や礼儀、感謝の心の大切さを理解させる		
<p>学校祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舞台発表や作品展示を通じて、来校者への感謝や思いやりの心を示す ○ 昼食の調理や販売を通じて働くことの意義を考える ○ 募金などのボランティア活動を通じて福祉について考えを深める <p>「学校祭を振り返る」 学校祭を通じて学んだことを振り返り交流した内容を、今後の生活に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの喜び ○ マナーや礼儀、福祉の大切さ <p>「働く意義を考える」 働くことの意義について、経験を振り返りながら、自分の考えを見つめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの意義 <p>「進路希望調査」 これまでの学習を振り返り、高校進学のみならず、将来的な就職も含めた自らの進路について、考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理想を実現しようとする心 ○ 社会の発展に貢献しようとする心 	<p>「地図のある手紙」 亡くなった人への感謝の気持ちがつづられた手紙を、猛吹雪の中届けようとする主人公の姿をどう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの意義 ○ 感謝や思いやりの心 <p>「ごみ仲間」 繰り返し汚されるごみ置き場の清掃を、不満も言わず笑顔で続ける主人公の姿をどのように思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの意義 ○ 感謝や思いやりの心 ○ 家族・地域の一人としての自覚 <p>「働くということ」 人はなぜ働くのか、人にとって仕事とはどういうことか、家族や友人の意見を聞く中で、勤労の尊さについて考えを深める。 (心のノートの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様なものの見方や考え方の理解 ○ 謙虚に学ぼうとする心 <p>「一枚のはがき」 お世話になった叔父からのはがきに書かれていた「感謝する心の大切さについて、どのように考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マナーや礼儀の大切さ ○ 感謝や思いやりの心 	<p>「職業(職場)調査活動」 将来就きたい職業や体験したい職場について、必要な資格や特徴などを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理想を実現しようとする心 ○ 働くことの尊さ <p>「マナーや礼儀の学習」 マナーや礼儀の意義を理解し、具体的にどのような言動が求められるかを話し合い、実践への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マナーや礼儀の大切さ ○ 謙虚に学ぶ心 <p>「職場体験の実践」 関心のある職場を選び、体験学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことの意義や喜び ○ マナーや礼儀の大切さと感謝や思いやりの心 ○ 謙虚に学ぶ心 <p>「まとめと発表交流」 成果や課題を資料にまとめ発表交流する中で、働くことについて考えを深めたり職業選択のための視野を広げたりする。同時に体験先の職場への礼状を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的に考え自らに責任をもつ心 ○ 個性を生かし充実した生き方を追求する心

Ⅲ 研究協力員・研究協力校の実践



1 道徳

「本当の友だち」

天塩町立天塩小学校 中村繁仁 教諭

2 特別活動

「相手・時・場合による話し方や聞き方」

留萌市立港南中学校 石垣友和 教諭

3 総合的な学習の時間

「探そう！学ぼう！フードパワー」

留萌市立沖見小学校 西山洋平 教諭

身近な出来事から信頼・友情に迫る「こころの教育の実践」

～友だちだから伝えたい大切なこと～

(小学3年 道徳 題材名『なかよしだから』)

天塩町立天塩小学校 中 村 繁 仁

1 はじめに

(1) 本校の道徳の時間の実践と児童の実態

本校では、平成18年度より、他領域との関連を明らかにした道徳教育に取り組み、特別活動、教科、総合的な学習の時間、発達段階における言語活動などとの関連を位置付けた年間指導計画を作成し、道徳の時間の指導に当たってきた。また、「自他を支える存在」に気付かせ、ともに助け合う心を育てるために、心に響く多様な資料や身近な人々・文化に触れさせる実践の工夫に取り組んできた。

児童は昨年度までの2年間、この実践のもとで、学校行事などとの関連をもった題材に触れたり、役割演技などの実践をしたりしながら、道徳の時間の学習に取り組んできた。

(2) 主題設定の理由

子供にとって、「友達」とは「一緒に遊ぶ仲間」という意味合いが最も強い。それに加え、3年生になった子供たちは、「友達」とは「様々な活動を一緒にする仲間」という意識をもち始める。生活体験の拡張に伴い、交友関係の広がり・深まりが出てくる。そして、友達を大切にする傾向が強くなり、「親友」と呼ぶような特定の友達の存在を意識するようになると、それをことさら大切にするようになる。反面、「友達（親友）だから」と、良いことも悪いことも曖昧にし、一緒になって悪いことをしてしまったり、友達の悪い行為を見過ごしてしまったりすることがある。

友達同士で甘え合ってしまう関係ではなく、友達同士互いに助け合い、励まし合い、教え合い、学び合うことで、真の友達関係を築いていこうとする態度を育てたいと考え設定した。

2 研究内容とのかかわり

本研究において、研究主題は、

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究
～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

道徳の時間の仮説は

道徳の時間において、自己理解を促し自己肯定感を高めるような学習活動を実践することで、道徳的価値の自覚を深めさせ、積極的に自己の在り方や生き方を確立しようとする主体性をはぐくむことができる。

となっている。

現代社会の激しい変化に対応し、自らの「未来を拓く力」を子供たちに身に付けさせるためには豊かな心をはぐくむことが求められる。美しいものに感動したり、正義や公正さを大切にしたり、あるいは生命を尊重したりするような人間らしい価値観が養われなければ、自らの未来に希望を見出すことは難しい。また、そのような価値観は、子供たちが自分自身と向き合い、的確に自己を理解し肯定する中で深まるものである。この「道徳的価値」と「自己理解・自己肯定」は、互いに密接に関連・補充し合いながら、子供たちの中で深まりゆくものと考えられる。そのような過程の途上で、あるいはそのような過程を経た上で、主体的に自己の理想像や生きる目標を明

確にすることが「生きる力」の育成である。

本実践においては、以下の3つの視点（研究内容）にかかわる手立てを講ずることで、「信頼・友情」についての価値の深まりを図り、子供たちの主体的な実践意欲につなげたいと考えた。

（1）心に響く資料の開発・工夫

本時で扱う資料は、「宿題を忘れてきた主人公が、なかよしの友達に宿題の答えを聞こうとして断られる」という話である。身近な話であり、日常の学校生活で実際に起こり得そうな場面である。主人公やその友達が置かれる状況や、断られた時の心情についても、想像することができると思われる。主人公とその友達の心情に共感させ、自己の課題として考えさせたい。そして双方の考え方について、深く考えさせ、真の友達の姿やそのような友達関係を築いていくことの大切さに気付かせたいと考えた。

（2）指導体制・方法の工夫

本時の指導においては、資料をより効果的に活用するための学習過程を設定した。まず、視覚資料を提示し、絵を読み解く段階を位置付けた。これにより、児童の本時の資料への興味が高まり、資料を聞くときには、登場人物に共感しながら、その心情を考えることができる考えた。そして、役割演技などの活動を通して、人物の心情をより深く考える段階を設定した。次に、自分の生活に立ち返らせ、自分の判断や態度について吟味する段階を設定した。最後は、ここまでの段階を通して見出した価値を確認し、実践への意欲につなげた。

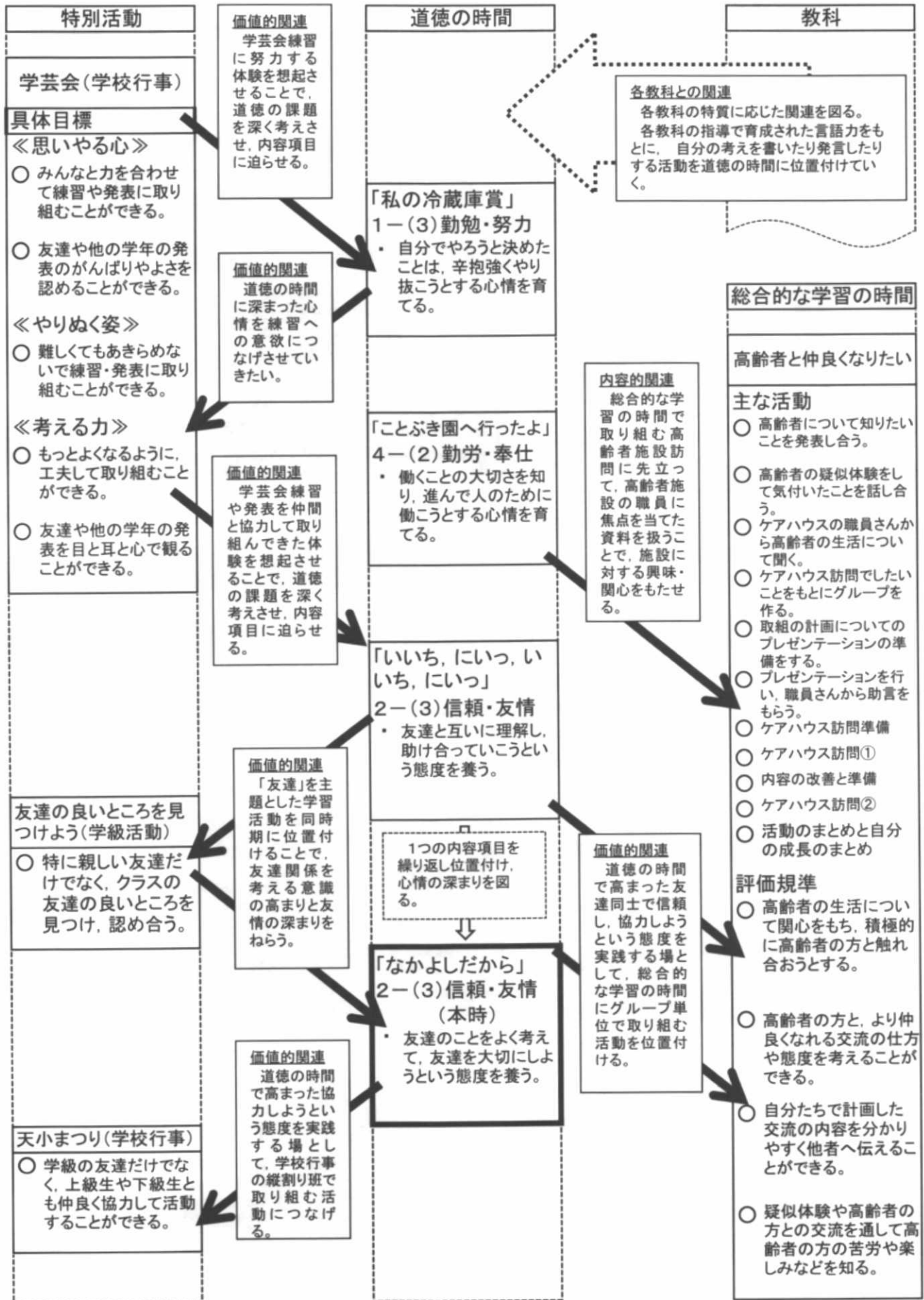
また、多くの児童が自信をもって発言するために、ワークシートの活用や考えをまとめる時間を保障し、必要に応じて個別に支援を講じた。また、座席を「コの字型」に設定し、クラスの仲間同士の顔を見ながら、みんなに意見を言ったり、仲間の意見を聞いたりすることで、他の意見への意識を高め、比較検討しながら考えを深めさせた。これらの手立てにより、活発な意見交流を図ることができると考えた。

（3）他領域との関連付けを図った指導の工夫

前時および本時の道徳の時間「信頼・友情」は、特別活動の学校行事「学芸会」を終えての位置付けである。学芸会に向けての一連の活動では、仲間と協力して練習や発表に取り組み、仲間との連帯感を味わい、その中で様々な交流の場面があったことが考えられる。これらの体験を想起することで、課題を深く考えさせ、内容項目に迫らせるとともに、学級活動「友達の良いところを見つけよう」を同時期に設定し、友達関係について考える意識の高まりと友情の深まりを図った。

総合的な学習の時間では、この後「高齢者と仲良くなりたい」という単元を設定している。この単元は、道徳の時間と価値的関連をもった単元として押さえ、道徳の時間で高まった友達同士で信頼し協力しようという態度を実践する場として、位置付けた。グループ単位での施設訪問や、その前後の相談・協力の場面で、仲間の立場・意見・気持ちを認める態度、友達と助け合う態度が求められる。目標をもった活動に取り組みさせることで、仲間との協力を意識させ、友達との信頼関係の深まりにつなげたいと考えた。

道徳の時間と各領域の関連













3 授業の実際

(1) 本時のねらい

- ・ 真の友情について考え、友達同士でもよくない行動を曖昧にせず、お互いに律する態度を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動	教師のはたらきかけ児童の反応	指導の工夫
課題の自己化	(1) 絵①を見る。 (2) 資料①を聞く。絵②を見る。 絵①  絵②  野球をしているところかな？仲がよさそう。	絵を見て気付いたことはありませんか。 お話を読むので聞いていてください。  資料提示：教師の朗読	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、発言に消極的な児童を優先して指名した。 ・ 前の発言に関連させた内容の発言を促した。 ・ 資料①と最初の絵を対比させながら聞かせた。
課題の吟味	(3) 「実君」に断られたときの「ぼく」の気持ちを考える。 (4) 「ぼく」に「どうして…。きみは、ぼくとなかよしだろう。」といわれた「実君」が、この後何と言うかを考え、ワークシートに記入する。 友達に嫌われるのはいやだな。 仲良しだから、見せてあげようかな。 「友達じゃないか。見せてくれてもいいよね。」 「見せるのは、本当の友達のすることじゃないよ。わかってよ。」 役を分けて役割演技 教師が相手役を演技。教師の「揺さぶり」。アドリブでこたえる児童。	実君に断られたとき、「ぼく」は、どんな気持ちだったでしょう。 「ぼく」に「どうして…。きみは、ぼくとなかよしだろう。」といわれた「実君」。自分が「実君」だったら、この後何と言いますか。   	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「断る」内容で自信をもって発言で来た児童には、続けて「昨日、カーブを教えた」というセリフを出し、返答を考えさせた。

	<p>(5) 資料②を聞く。</p> <p>絵③</p>  <p>意見をワークシートに記入。 役割演技や意見交流によって深まった考えを書く。</p> <p>(6) 「実君」は、なぜ「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのかを考える。</p> <p>児童のワークシートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやれるなら、やればいい。 ・仲良しだけど、教えられないこともあるよ。 ・悪いことをしたらダメだ。 	<p>「実君」は、なぜ「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのでしょうか。</p>  <p>実君は、意地悪をしているのではなくて、友達に悪いことをさせたくなかったんだ。</p>	
<p>視点を変えて吟味</p>	<p>(7) 「もしも、自分だったら、友達の良くない行動を注意できるかどうか」を考える。</p>  <p>どうしようかな？</p>	<p>もしも、自分だったら、友達の良くない行動を注意できますか。</p> <p>みんなだったら、「友達だから見せてあげられない」と言えるかな？</p> <p>私だったら見せちゃう！</p> <p>ぼくは、ぜったいに見せる。</p>	<p>・コの字型にしたことで、児童の活発な意見交流を促すことができた。</p>
<p>実践への意欲化</p>	<p>(9) 資料③を聞く。</p> <p>友達に嫌われるのはこわいけど勇気を出すことが大切なんだね。</p>	<p>(9) 資料③を読む。</p> 	

4 成果と課題

(1) 心に響く資料の開発・工夫

[成果]

- ・児童にとって実際に起こり得そうな身近な出来事を題材にしたことで、児童が自分の立場に置き換えて考えることができ、児童の積極的な発言が見られ、役割演技の活動にも意欲的な姿が見られた。

[課題]

- ・登場人物の双方の立場での心情を考える活動について、どちらの立場について考えるのかの発問が不明確だったので、児童にとって考えにくく、発言力の高い児童に発言が集中する結果になった。多くの児童が自分の考えを発言しやすい発問や流れを工夫していく必要がある。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・「コの字型」の座席にしたことで、発言している顔を互いに見ることができ、他の児童の考えを意識した内容の意見が多く出た。
- ・児童が容易に答えることのできる絵解きや、役割演技などを取り入れることで、児童の活動が単調にならず、活発な学習活動ができた。また、このような授業過程での道徳の時間の授業を重ねたことで、児童が学習パターンを身に付け、落ち着いて学習に取り組むことができた。

[課題]

- ・役割演技の発表をやりたがった児童が多かったが、時間配分の関係から数人の児童の指名となった。より多くの児童の表現の場の保障を考えたい。また、他の児童の演技から意見交流につなげるなどの、つながりのある学習活動を考えていきたい。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

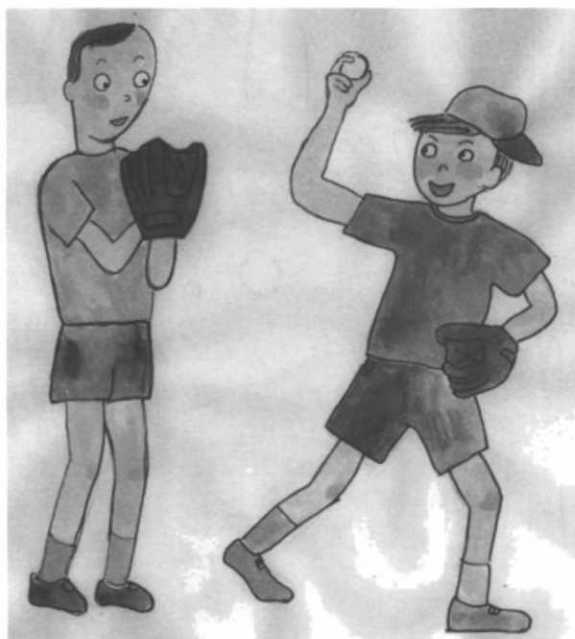
[成果]

- ・「友達」をテーマにした学習活動を学校行事（学芸会）の時期に集中させることにより、友達を大切にしている心情や協力する態度について考えさせる活動を充実させることができた。
- ・道徳の時間だけでは、児童の変容を十分に見取ることができないため、全教育活動において広い視野で見取ることの必要性を改めて気付くことができた。

[課題]

- ・総合単元的に他との関連を図った指導計画を工夫してきたが、他の教育活動との関連付けが困難な価値内容もある。教科との関連も含めて、さらに効果的な指導計画を考えていく必要がある。
- ・他教科との関連を図ったことで、どのような効果があったのか、評価することが難しい。道徳の評価とそれを生かした指導の在り方を考えていく必要がある。

《本時の資料》



絵①



がとくいです。それに
絵②

《 資料① 》

朝、学校へ着くと、ぼくは、算数の宿題を忘れていたことに気がつきました。こまったな、と、思いましたが、(実くんを教えてもらえる。)と、思って、ほっとしました。

実くんは、ぼくとなかよしで、算数が得意です。それに、きのう2人でキャッチボールをして、ぼくが、カーブの投げ方を教えてあげたのです。実くんは、とても喜んでいたので、そのお返しに宿題の答えを教えてもらえる、と、思ったのです。

実くんがやってきたので、ぼくは、とんでいきました。

「実くん、ぼく、宿題忘れてきたんだ。答えを教えて。」

実くんは、ぼくの顔をじっと見て、だまっています。

「どうしたの。きみもわすれたの。」

「ううん。ちゃんとやってきたよ。」

すると、実くんは言いました。

「だめだよ。まだ時間があるじゃないか。問題が3つしかないんだから、じぶんでやれよ。」

ぼくは、びっくりしました。

「どうして…。きみは、ぼくとなかよしだろ。」

《 資料② 》

ぼくは、びっくりしました。

「どうして…。きみは、ぼくとなかよしだろ。」

「なかよしだから、なお教えられないよ。」

「きのうカーブの投げ方を教えてやったじゃないか。」

「これは宿題だけ。キャッチボールとはちがうよ。」

ぼくは、かっとして、

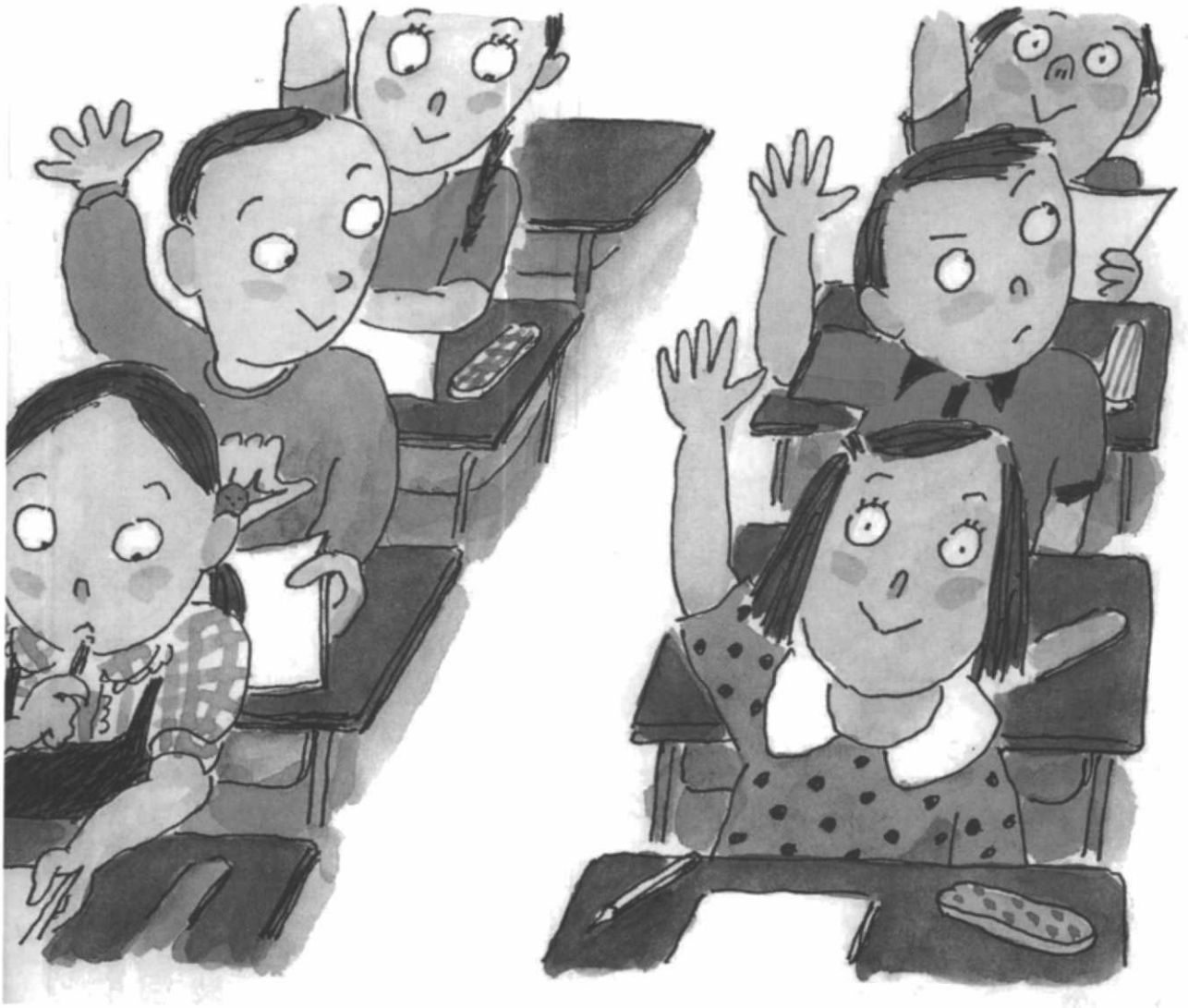
「そんなのあるか。もういいよ。」

と言って、席につきました

宿題は、何とか間に合いました。答え合わせが終わって、先生が、

「全部できた人は、手をあげなさい。」

と、言われたとき、実くんは手を挙げながら、ぼくの方を見ました。ぼくが手を挙げているのを見て、実くんは、にっこりわらいかけました。でも、ぼくは、ふん、とそっぽをむきました。



絵③

《 資料③ 》

ぼくが手を挙げているのを見て、実くんは、にっこりわらいかけました。でも、ぼくは、ふんとそっぽをむきました。

休み時間にも、放課後にも、実くんは 何度かぼくに声をかけましたが、ぼくは、知らないふりをして、口をききませんでした。

家へ帰っても、まだ実くんのことが しゃくにさわっていました。でも、今朝の答え合わせのノートを見ているうちに、実くんが、なぜ「なかよしだから、なお教えられないよ。」と言ったのか、だんだんわかってきました。

職場体験学習を想定し、ロールプレイを活用した「心の教育」の実践

(中学2年 特別活動 題材名『相手・時・場合による話し方や聞き方』)

留萌市立港南中学校 石垣友和

1 はじめに

(1) 生徒の実態

明るく活発な生徒が多く、何事にも一生懸命に取り組もうとする姿勢が見られる。学校行事では、リーダーを中心に団結して取り組み、その過程・結果に満足感・達成感を抱く経験もしている。

その一方で、普段の学校生活ではあまり仲の良くない級友の行動や発言に関心が薄かったり、面倒なことは人任せにしてしまったりするところに人間関係の希薄さも見られる。また、教師に対する言葉遣いも友人に対するものと同じになってしまう場面もあり、その使い分けができていない生徒が多い。

(2) 主題設定の理由

中学2年生という中堅学年において、学校行事や生徒会活動でも学校の中心となって活動していく時期を迎えつつある。また、この時期は、様々な悩みや不安を抱えて精神的にも不安定になる時期でもある。心の中で思っていることとは違う行動を取ってしまったり、友達や両親、先生の助言を素直に受け入れられなかったりすることもある。

その中で友人や先輩、後輩、両親、先生などとの望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけることは必要不可欠である。さらに10月は、総合的な学習の時間の活動として、3日間の職場体験を目前に控えていた。学校生活において生徒が働く者として、教師以外の大人や来店するお客と接する機会はない。職場体験の事業所で、様々な人々と接する際には、礼儀や言葉遣い、マナーが求められることは当然のことである。

学級、そして社会の一員として、自分にかかわりのある人々との望ましい人間関係を構築するため、相手・時・場合を意識して接する必要性が生まれてくる。職場体験を終えてからの学校生活でも、様々な人々と接するためにコミュニケーション能力を身に付けておくことが、大切であると考えた。

本時でも、自分にかかわりのある人々との望ましい人間関係を構築するため、相手・時・場合を意識した話し方や聞き方を身に付ける支援をしていきたいと考えた。

2 研究内容とのかかわり

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

【視点 特別活動の指導に関して】

本研究において、特別活動の時間の仮説は

特別活動において、個性を大切にしながら、集団の一員としての責任を自覚できるような学習活動を行うことで、共に支え合って生活しようとする実践的態度をはぐくむことができる。

となっている。

「豊かな心」をはぐくむためには、道徳の時間においては、自己を深く見つめることに主眼が置かれているのに対し、特別活動においては、自己理解に立った上での他者との豊かなかかわりに重点を置いている。それは、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする主体的、実践的な態度を養う。」とする特別活動のねらいと合致している。

(1) 学校行事や学級活動における集団活動の工夫

学級、そして社会の一員として自分とかかわりのある人々との望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力をはぐくむ支援を行った。

本時においては、実際に起こりうる状況を設定してグループでロールプレイのシナリオを考えさせ、実演させた。その活動の中で、職場体験を意識した目上の人との接し方にも目を向けさせることはもちろんのこと、普段の学校生活での言葉遣いや思いやりの態度を見直す機会とさせたいと考えた。特に前者の場合は、接し方に注意する点が出てくる。相手を尊重し、教えを請う上での謙虚な姿勢が大切である。ロールプレイ後の話し合いでは、その中で身に付けなければならない礼儀や言葉遣い、マナーについて確認させていった。

(2) 指導体制・方法の工夫

本時では、(1)でも述べた通りロールプレイを行い、実際に起こりうる状況を設定して、グループでロールプレイのシナリオを考えさせ、実演させた。相手・時・場合によって、話し方や聞き方を変える必要があることを分かっているにもかかわらず、経験から実感として捉えることには乏しい状況がある。ロールプレイでは、立場の違う相手を設定するだけではなく、具体的な状況を設定して現実味のある体験をさせたいと考えた。生徒にはシナリオを自分たちで考えさせ、進めていった。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

他領域と関連付けた指導については次に示す「年間指導計画」と「総合的な学習の時間（職場体験の単元構成）」の通りである。

① 年間指導計画（他領域との関連付けを図った指導の工夫）… 第2学年

	特別活動	道徳の時間	総合的な学習の時間
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生になって ○学習の心得（教科書配付） ○学級組織づくり ○意欲的な学級を作ろう（学級目標づくり） ○夢の世界【生活と進路】 ○私の夢【生活と進路】 □着任式・始業式・入学式 □身体測定・内科検診・大掃除 △新入生歓迎の集い △前期学級役員任命式 △生徒総会議案書学級討議 △一斉常任委員会（前期計画） △全校協議会（生徒総会議案書検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 『どうなってるの？』 節度ある生活態度 1-(1) 『チームワーク』 集団生活の向上 4-(1) 『書を語る』 向上心・個性の伸長 1-(5) 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○学年集会（体育大会に向けて） □生徒総会 □体育大会総練習・体育大会 □歯科検診 △一斉常任委員会（定例） △全校協議会（定例） 	<ul style="list-style-type: none"> 『いつも一緒に』 信頼・友情 2-(3) 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○体育大会を終えて ○夢の実現に向けて【生活と進路】 ○すてきな交際 □教育相談 □中体連社行会 □中体連夏季大会 △一斉常任委員会（定例） △全校協議会（定例） 	<ul style="list-style-type: none"> 『名誉の失格』 正義・公正・平等 4-(4) 『ほんとうにやりたいならそうなさい』 自主・自立 1-(3) 『紙片』 男女の理解 2-(4) 	福祉・ボランティア
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の個人反省と夏休みの計画 ○学年集会（1学期を振り返って） ○1学期を振り返って（通知表） □大掃除 □終業式 △一斉常任委員会（定例） △全校協議会（定例） 	<ul style="list-style-type: none"> 『マリア・ルス号事件』 社会連帯の精神 4-(3) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期への取り組み ○素晴らしい宿泊研修にするために □大掃除・始業式 □グロウカップレース △一斉常任委員会（定例） △全校協議会（定例） 	<ul style="list-style-type: none"> 『地図のある手紙』 感謝・思いやり 2-(2) 	宿泊研修（札幌自主研修）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○弁論学級選考会 ○学校祭に向けて（合唱曲選考） ○悩みや不安 □宿泊研修 △一斉常任委員会（前期反省） △全校協議会（定例） 	<ul style="list-style-type: none"> 『デンさん』 心理愛・理想の実現 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○人はなぜ働くのだろう ○希望職業調べ（進路希望調査） ○相手・時・場合による話し方や聞き方（検証授業） ○学校祭反省 ○後期学級役員・係の選出 △生徒総会議案書学級討議 △一斉常任委員会（後期計画） △全校協議会（生徒総会議案書検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 『ごみ仲間』 勤労・社会への奉仕 『一枚のはがき』 礼儀 	職場体験

11月	<input type="checkbox"/> 性的欲求と性行動 <input type="checkbox"/> 三者面談	『自主教材』男女の理解 2-(4)	
12月	<input type="checkbox"/> 長期休業の生かし方 <input type="checkbox"/> 学年集会（2学期を振り返って） <input type="checkbox"/> 2学期を振り返って（通知表） <input type="checkbox"/> 大掃除 <input type="checkbox"/> 終業式 <input type="checkbox"/> △一斉常任委員会（定例） <input type="checkbox"/> △全校協議会（定例）		
1月	<input type="checkbox"/> 冬休みの反省と学年末に向けて <input type="checkbox"/> かけがえのない命 <input type="checkbox"/> 大掃除・始業式 <input type="checkbox"/> △一斉常任委員会（定例） <input type="checkbox"/> △全校協議会（定例）	『花に寄せて』 生命尊重 3-(2)	
2月	<input type="checkbox"/> 家族の一員としての私 <input type="checkbox"/> 友達の輪 <input type="checkbox"/> 人はなぜ学ぶのだろう <input type="checkbox"/> △一斉常任委員会（後期反省） <input type="checkbox"/> △全校協議会（定例）	『木琴』家族愛 4-(6) 『ちいちゃんの爪』 信頼・友情 2-(3)	
3月	<input type="checkbox"/> 卒業式の意義 <input type="checkbox"/> 卒業式を終えて <input type="checkbox"/> こんな3年生になろう <input type="checkbox"/> 1年間を振り返って（通知表） <input type="checkbox"/> 卒業式総練習・卒業式 <input type="checkbox"/> 大掃除・修了式 <input type="checkbox"/> 離任式	『天ぶらそば』 感謝・思いやり 2-(2)	

② 総合的な学習の時間（職場体験の単元構成）… 全31時間



プロセス	具体的な活動内容	特別活動との関連付け
ステップ1 (1時間)	働くことの意義について ・生活と進路「人はなぜ働くのだろう」を学習し、働く目的を考える。 ・職場希望調査	・人はなぜ働くのだろう 【生活と進路】 ・希望職業調べ
ステップ2 (2時間)	事業所ごとの事前準備 ・個人目標の設定（学びたいこと） ・事業所への質問事項の確認 ・礼儀やマナー（話し方、聞き方） ・集会発表の準備	・相手・時・場合による話し方や聞き方 【検証授業】
ステップ3 (1時間)	学年集会 ・体験する事業所別に決意表明	
ステップ4 (18時間)	職場体験当日（3日間）	
ステップ5 (4時間)	職場体験のまとめ ・プレゼンテーションソフトで体験したこと、学んだことをまとめる。 ・事業所へのお礼状を作成	
ステップ6 (5時間)	職場体験の発表会 ・まとめた内容を発表会で交流する（4時間） ・まとめ（1時間）	

3 本時の実際

(1) 本時の目標

- ・ 職場体験を想定して、ロールプレイから相手の立場に立った言葉遣いや態度を考えることができる。
- ・ 学校生活における言葉遣いや礼儀正しさについて、見直すことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	主な発問と生徒の反応	支援・評価の実際
導入	<p>◇生活を振り返り、相手・時・場合によって話し方や聞き方にどんな違いがあるのか考える。</p>  <p>◇学習課題を確認する。</p> <p>学習課題 ロールプレイを通して、相手の立場に立った言葉遣いや態度を考えてみよう。</p>	<p>友達と話す時、職場の人と話す時では話し方や聞き方にどんな違いがあるだろう。</p> <p>やっぱり敬語で話すのが礼儀だよなあ。あとは、何だろう？礼儀正しくすること？話をしっかり聞くこと？</p>	
展開	<p>◇状況設定を説明する。</p> <p>《状況①》 職場体験の初日の朝、あなたは同じ職場に行く生徒の代表として担当の方が一番初めに対面することになります。そこでどのようなやりとりをすべきか考えてもらいます。</p> <p>《状況②》 スーパーでの職場体験。品出しの最中にお客さんから「魚売り場はどこですか。」と聞かれます。そこでどのようなやりとりをすべきか考えてもらいます。</p>	 <p>実際にありそうな状況だね。みんなだったらどんな対応をするかな？</p>	<p>状況①では、担当の方に対面した時のあいさつ、自己紹介、他生徒の紹介、意気込みのシナリオを考えさせた。</p> <p>状況②では、店内の地図を用意し、それを使ってどのようにお客に案内するかを考えさせた。</p>

◇ 1グループ6人ずつ、計5グループに分かれて、ロールプレイのシナリオを考える。

※ 状況①：3つのグループ

【ロールプレイの流れ】

- ①入室 ②あいさつ ③自己紹介
- ④他の生徒の紹介 ⑤意気込み

状況②：2つのグループ

【ロールプレイの流れ】

- ①品出しをしている。
- ②お客さんに声をかけられる。
- ③お客さんに対応する。
 - ・あなたは売り場の見取り図を持っている。
 - ・本日は大売り出しでサンマが安いと担当の方から聞いていた。

◇グループで考えたシナリオを代表者が実演する。



すみません。魚売り場はどこですか？教えてください。



◇各グループで望ましい言葉遣いや態度について気付いたことを話し合い、発表する。

グループに分かれて、ロールプレイのシナリオを考えてみよう。



敬語って使い慣れてないと難しいなあ。話す時の態度も大切だよね。

グループで考えたシナリオをもとにロールプレイを発表しよう。

おはようございます。今日から3日間、お世話になります。この職場体験を通して、働くことの大切さを学びたいと思います。



もっと声を大きくしたり、相手を見て話したりすると、印象が良くなると思うなあ。自分たちの発表に生かそう。

いらっしやいませ。魚売り場までご案内します。今日は、サンマが安いですよ。



話す時の表情や声の大きさとかも大切だよね。実際にやってみるとよく分かる。

終 末	◇本日の授業を振り返り、「学校生活での敬語や礼儀正しさ」という題名で感想をワークシートに記入する。	今日の学習を振り返って、感じたことを記入してみよう。	学校生活での言葉遣いや思いやりの態度について振り返り、不十分な点について気付かせるよう、指導した。
--------	---	----------------------------	---

(3) ロールプレイの詳細

特別活動「相手・時・場合による話し方や聞き方」

【状況①】

職場体験の初日の朝、あなたは同じ職場に行く生徒の代表として担当の方に一番初めに対面することになります。そこでどのようなやりとりをすべきか考えてみよう。

《ロールプレイの流れ》

- ①入室
- ②あいさつ
- ③自己紹介
- ④他の生徒の紹介
- ⑤意気込み

《登場人物》

- ①あなた
- ②同じ職場に行く生徒（相沢くん）
- ③同じ職場に行く生徒（後藤さん）
- ④担当の方（森さん）

《言葉遣いや態度で意識する点》

- ・ハキハキと
- ・相沢に失礼のほかに敬語を使う
- ・意気込みをしっかりと見せる時は本日の目を見る

～入室する～

あなた【あいさつ】：失礼します。

あなた【自己紹介】：海陽中学校の〇〇です。今日から3日間お世話になります。これからいろいろお世話になります。よろしくお願いいたします。

森さんの自己紹介

あなた【他の生徒の紹介】：同じ学校の相沢と後藤です。

相沢くん：よろしくお願ひします。

後藤さん：よろしくお願ひします。

森さん：職場体験に向けての意識はできていますか？

あなた【意気込み】：はい。この3日間の体験を今後の生活や職場についたときにかけるように心がけたいと思います。

森さん：では、早速作業に入ってもらいます。こちらへどうぞ。（ロールプレイ終了）

特別活動「相手・時・場合による話し方や聞き方」

【状況②】

スーパーでの職場体験。飲み物の品出しの最中にお客さんから「魚売り場はどこですか」と聞かれます。そこでどのようなやりとりをすべきか考えてみよう。

《ロールプレイの流れ》

- ①品出しをしている。
- ②お客さんに声をかけられる。
- ③お客さんに対応する。
 - ・あなたは売り場の見取り図を持っている。
 - ・本日は大売り出しでサンマが安いと担当の方から聞いていた。

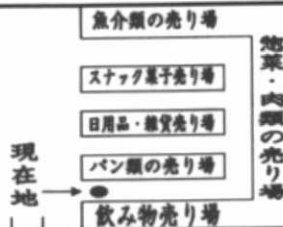
《登場人物》

《言葉遣いや態度で意識する点》

- ①あなた
- ②買い物をしているお客さん

《言葉遣いや態度で意識する点》

- ・敬語
- ・笑顔
- ・元気に
- ・ハキハキと



～あなたは飲み物の品出しをしています～

お客さん：すみません。魚売り場はどこですか？教えてください。

あなた【お客さんへの対応】：案内しますよ。今日はサンマが大変お安くしております。(魚売り場)こちらが魚売り場になっております。(魚売り場に手を向けながら)

お客さん：ありがとうございました。助かりました。（ロールプレイ終了）

4 生徒の感想から ～「学校生活での敬語や礼儀正しさ」～

- ・今まで学校生活では、言葉遣いに注意したことはあまりなかった。職場体験では、ふとした時にその言葉遣いが出ないように気を付けたい。他にも話し方によって、相手に与える印象が大きく違うことにも気付くことができた。明るく、元気に。
- ・これからの学校生活では、年上の方にはいつでも敬語を使えるようにしていきたい。また、友達同士でも「おはよう」や「ありがとう」などのあいさつや礼儀を大切にしていきたいと思った。
- ・「敬語や礼儀正しさ」が大切なことは、頭では分かっていた。でも、実際にロールプレイでやってみると、行動に表すのは難しいことが実感できた。普段から意識して生活しないと身に付かないことだと思う。
- ・就職してから「敬語や礼儀正しさ」を身に付けるのでは、遅いと思う。社会人なら「正しい言葉遣い」や「その場にふさわしい態度」ができて当たり前。今のうちから意識して生活しなければ。

5 成果と課題

(1) 学校行事や学級活動における集団活動の工夫

[成果]

- ・実際に起こりうる状況を、ロールプレイとして実践させることで生徒は具体的なイメージをもって、状況に応じた適切な言動について考えることができた。また、目上の方に対する話し方は、どのようなものが適切であるか、しっかりと捉えることができた。
- ・シナリオから生徒に考えさせることで、一人一人の思考と他の級友と共に学び合う姿勢を高めることができた。
- ・職場体験の後には、生徒から本時で学んだ「礼儀やマナー」を実践できたという生徒の声が聞けた。

[課題]

- ・ロールプレイによって具体的な実践を行い、生徒が感じたこと、考えたことをもっと発表させるべきだった。それら生徒の実感から「普段の自分たちの言動は適切であるか」という視点に転換させ、一般化へ向かわせる工夫に課題が残った。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・グループで考えたシナリオを比較する際、ロールプレイの発表は効果的であった。シナリオを自分たちで考えることにより、主体的に活動へ取り組むことができた。
- ・ロールプレイの実践により、理解していることと実際に行うことの違いを感じ、見ている側は、各グループの発表の違いを感じていた。

[課題]

- ・ロールプレイの実践後、感じたことをワークシートに記入させたり、教師の評価をきめ細やかにしたりすることで、この活動の有効性が高まったと考えられる。また、ロールプレイの内容のさらなる吟味により、生徒の今後の活動へとつなげることができたと考える。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

[成果]

- ・本時の翌週にあった職場体験の直前に、「望ましい話し方・聞き方」をテーマとして行ったことで、職場体験の模擬体験をすることができた。それが、実際の職場体験にも生かされることとなった。
- ・総合的な学習の時間では、表面的な指導で終わってしまった「マナーや礼儀」の指導を補填し、実感のあるものとして生徒に印象付けることができた。

[課題]

- ・職場体験学習を行う中で生まれた新たな課題を、再び学級活動で取り上げることでさらなる集団活動の高まりが生まれると思われる。今後の活動においても、意図的に関連付けを図ることで、より一層の効果を期待することができる。

農村体験学習の活動を生かした「心の教育」の実践

(小学5年 総合的な学習の時間 題材名『探そう！学ぼう！フードパワー』)

留萌市立沖見小学校 西 山 洋 平

1 はじめに

(1) 今日的な課題から

平成17年6月10日に成立した食育基本法に端を発し、近年、世の中において「食育」への関心が高まっている。同法前文では、「子供たちに対する『食育』は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである」とうたわれている。

現在、我が国の食生活について考えると、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度のダイエット志向などの問題に加え、食料を輸入することに関連して生じる「食」の海外への依存の問題、国内外の食品を問わず数多く起こっている「食」の安全上の問題など大変多くの課題がある。このように「食」に関する情報が社会に数多く存在する中で、人々は食生活の改善の面からも、「食」の安全確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。

こうした現状を踏まえ、「食」をテーマとした学習活動を行うことによって、「食」の大切さに気づき、自らの食生活について意識を高めるきっかけを作ることができると考え、本単元を設定した。

(2) 地域・体験とのかかわりから

北海道は日本の全都道府県の中で食料自給率が最も高く（約200%）、各地で様々な農業が盛んである。留萌管内では、稲作や畑作、酪農等、各地でバラエティーに富んだ農業が営まれている。その中でも子供たちが暮らしている留萌市においては、カズノコ等の水産加工業や、高品質なお米を生産することで高い評価を得ている稲作が代表的である。

このような環境の中で、田植え体験、稲の生育観察、田んぼの生き物調べ、稲刈り体験等の体験学習を通して、子供たちが稲作を身近なものと感じ、食料を生産することに対して関心が高められるよう「農村体験学習」を計画した。市内幌糠町で稲作を営んでいる営農集団「留萌市☆五志道」、および留萌支庁農業改良普及センターと連携し、春から秋にかけて行い、地域の特色を生かした活動となるよう工夫した。

また、その農村体験学習を生かし、意欲的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、食べ物及び「食」の生産者に対して感謝の気持ちをもたせることをねらいとして、本単元を設定した。農村体験学習で育てたもち米を使い料理の献立を考え、実際に料理を作りお世話になった人に振る舞うという体験活動を通して、子供たちの関心・意欲が高まり、感謝の心をはぐくむことができると考えた。

(3) 児童の実態から

本単元の学習にあたって、学級の児童に「食事についてのアンケート」を行った。その

結果、まず、朝食についての質問では、「朝食を食べない日がある」児童が8名と、学級の3分の1に達することがわかった。その理由としては、「食べる時間がない」「おなかがすかない」というものが多く、朝起きるのが遅いことが朝食を食べないことにつながっていると考えられる。

次に、好き嫌いに関する質問では、嫌いなものが出された時にはほとんどの児童が「我慢して食べる」と答えている。好き嫌いがあるとはいえ、自分なりに努力して食べようとしている気持ちはもっていると考えられる。

最後に、給食についての質問では、半数以上の児童が「給食が好き」と答えている。食事そのもののおいしいこと、みんなと一緒に食べられて楽しいということが主な理由である。「一人で食べる食事はつまらない」と感じている児童が多いことから、普段から家族と一緒に食事をしている児童が多いのではないかと思われる。その一方で、嫌いなものも我慢して食べようとしながらも、結果として多くの児童が給食を残しているという実態も見られ、食に関する指導の必要性が感じられる。

これらの結果を踏まえ、本単元の学習を通して、バランスよく食事を取ることの大切さを感じさせ、児童一人一人の普段の食生活に対する意識をさらに高めていきたいと考えた。

(資料) 学級アンケートの結果 ※単位：人

回答数 25

1 あなたは朝食を毎日食べますか？

必ず食べる	時々食べない	食べない方が多い	食べない
17	6	2	0

2 食べない日がある理由は？

食欲がない	おなかがすかない	時間がない	その他
1	2	4	1

3 朝ごはんには食べるものはどんなのですか？

ごはん	パン	ご飯かパン	その他
4	3	18	0

4 食事に嫌いなものが出たらどうしますか？

我慢して全部食べる	我慢して少し食べる	食べずに残す
8	15	2

5 食事を楽しんでいるのはどんな時ですか？(複数回答)

外食の時	好きなものを食べる時	家族で食べる時	給食の時	野外で食べる時
16	15	10	8	7
自分が作った時	夕食の時	テレビを見ながらの時	一人で食べる時	
6	4	4	2	

6 食事をつまらなく感じるのはどんな時ですか？(複数回答)

食欲がない時	嫌いなものが出た時	おなかがすかない時	一人で食べる時	量が多過ぎる時
15	12	11	10	7
話が楽しくない時	量が少なく足りない時			
5	3			

7 あなたは給食が好きですか？

大好き	好き	普通	あまり好きではない	嫌い
9	5	9	2	0

8 給食が好きな理由は？(複数回答)

みんなと一緒に食べられるから	おいしいから	栄養バランスがよいから	食べたことのないものが出るから	好きなものが出るから
13	10	5	4	2

9 あなたは給食を残すことがありますか？

いつもたくさん残す	少し残す	たまに残す	ほとんど残さない
0	13	9	3

2 研究内容とのかわり

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

【視点 総合的な学習の時間の指導に関して】

本研究において、総合的な学習の時間の仮説は、

総合的な学習の時間の指導において、子供の実態に応じ、地域や学校環境の特色を生かしながら学習活動を行うことで、自己を実現し、未来を切り拓く実践力をはぐくむことができる。

と設定した。

本研究では、「心の教育」を推進していく上で、総合的な学習の時間においては、地域や学校環境の特色を生かした学習活動を通して、自己の理想を実現しようとする力をはぐくむことを目指している。

本単元においては、収穫したもち米を使った料理を考えて作り、お世話になった生産者を招いて収穫祭を開くという学習活動を行った。この中で、食べ物の栄養とバランスについて考えることから食生活の大切さを再認識し、地域の食べ物への愛着と身近な生産者への感謝の気持ちをもつことにもつなげていくことができると考えた。

(1) 地域環境を生かした体験活動の工夫

自分たちの生活する地域でおいしいお米を生産していることに気付かせ、地域のよさを感じさせたいと考え、1学期から継続して「農村体験学習」に取り組んだ。その中で、イネの収穫体験をさせていただき、体験後も校内で「脱穀」や「もみすり」、「精米」といった作業を行った。本単元では、これらの経験を生かし、いただいたお米の調理方法を考えて実際に調理するという学習を行った。一連の取組は、地域の特色を生かした体験活動であり、高い学習効果を生み出すと考え設定した。

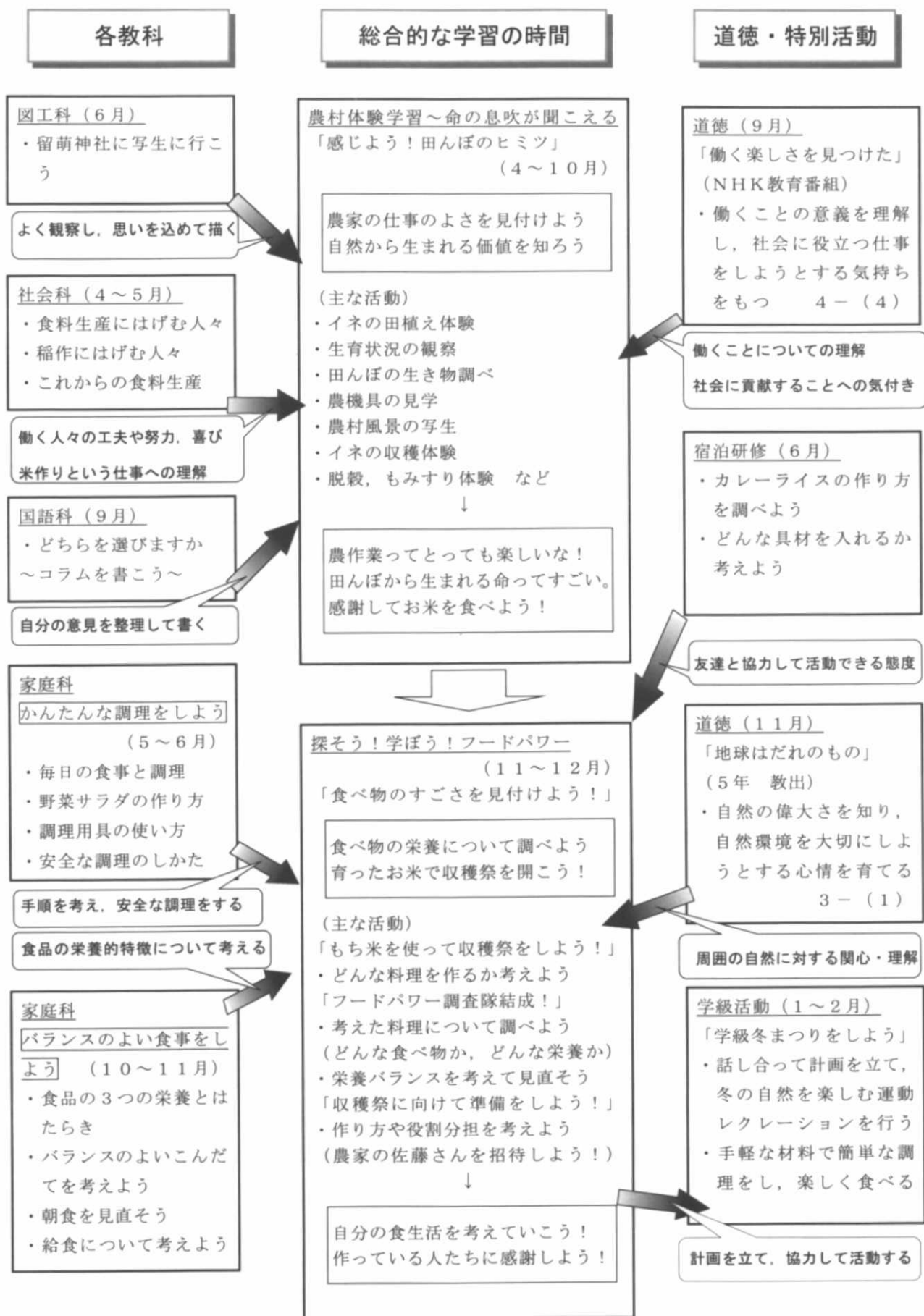
(2) 指導体制、方法の工夫

料理について調べる学習では、4～5人のグループを6つ編成して作りたい料理を考えさせ、児童の興味・関心を高められるよう留意しながら進めた。また、日常と同じ形態で指導することにより、落ち着いた学習環境を作りたいと考え、基本的に一つの場所で行う時間に関しては担任教諭が中心となって指導を行った。

本時においては、「食」について専門的知識を有する栄養教諭の笹嶋さんに協力していただき、指導体制を工夫することで、より効果的な学習を行えるよう努めた。

また、単元の終末に行った「収穫祭」では、農家の佐藤さんらを招き、子供たちが作った料理を食べていただく活動を行った。このことを通して消費者と生産者のつながりに気付き、食に対する感謝の気持ちをもつことができると考え、指導を行った。

(3) 他教科との関連付けを図った指導の工夫



3 単元の目標

(1) 主体的・創造的態度

収穫祭に向けての様々な活動で、工夫しながら積極的に取り組もうとする。

(2) 問題を解決する力

調べたことや考えたことをもとに、自分の食生活についての課題を見付け、よりよく解決していこうとすることができる。

(3) 学び方・考え方

グループの友達と協力し合って、調べ方やまとめ方、発表の仕方を工夫したり、話し合ったりすることができる。

(4) 自己の生き方

調べて分かったことや体験できたことを通して、「食」の大切さを考え、食物と地域の生産者への感謝の気持ちや、普段の食生活に対する新たな意識をもつことができる。

4 児童の実態

(1) 学習全般に関して

基本的な学習習慣は身に付いていて、落ち着いた雰囲気での学習ができている。どの教科の学習にも意欲的に取り組めるが、自分の考えや能力に自信がない時は消極的な姿勢が目立つ。また、自分から進んで発言しようとする児童はやや固定化している現状がある。

グループ学習や班活動を行う時には、誰とでも一緒に取り組むことができる。しかし、課題を早く終わらせようとするあまり、話し合いや意見をまとめる活動などが深まらない場面や、与えられた課題を終えた時点で集中力を切らしてしまう場面もあるので、1時間を通して学習に進んで取り組めるよう指導している。

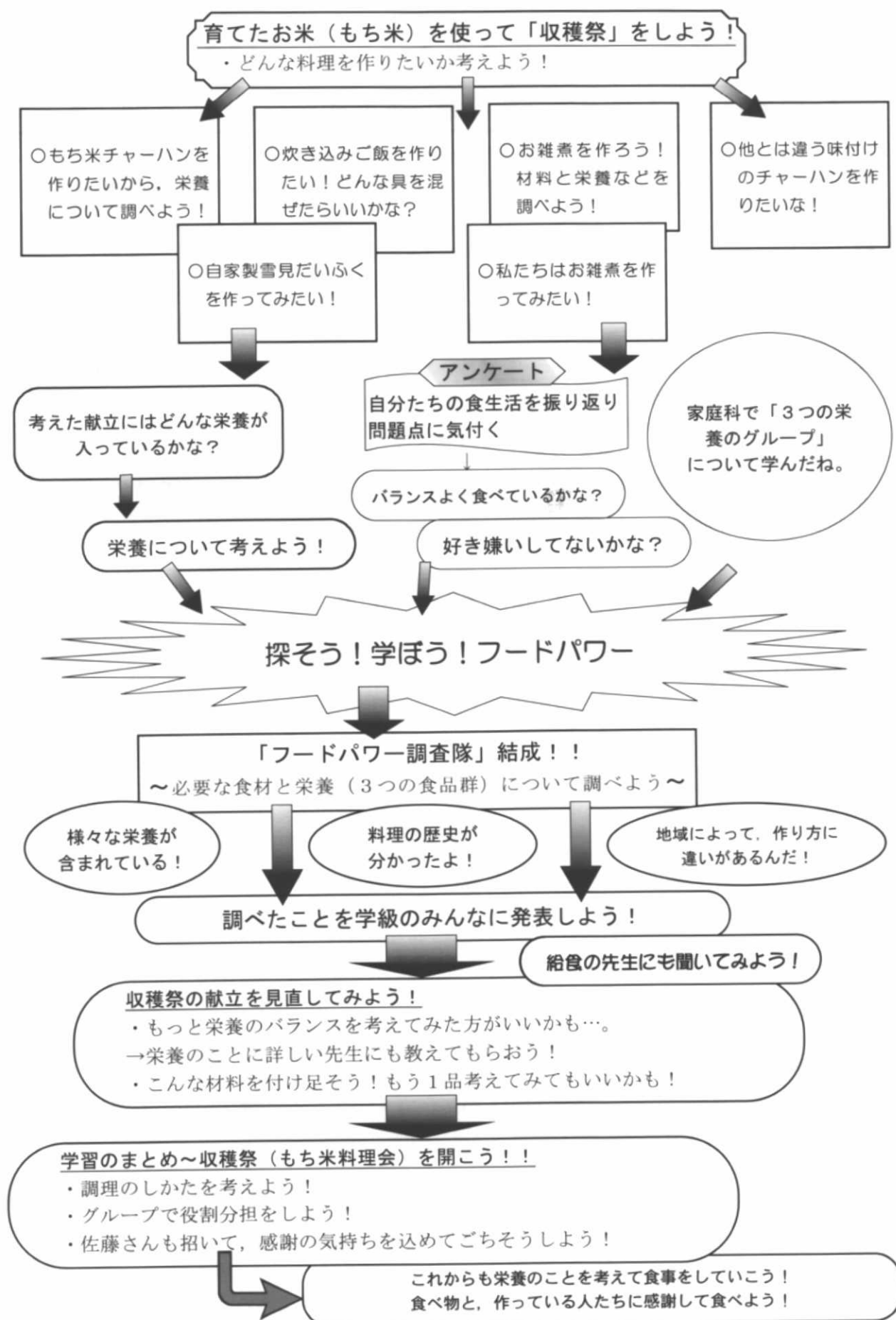
(2) 総合的な学習の時間に関して

今年度のこれまでの学習では、社会科の発展的な位置付けとして取り組んだ「農産物」「漁業」について調べる学習を行った。4～5人の班ごとにテーマを決め、本などの資料やインターネットで得た情報をもとに、分かったことを画用紙にまとめ、発表するという流れで学習した。この学習の中で、調べて分かったことは出典を明記して発表物にまとめること、インターネットの情報は誰（個人、企業、国の機関等）が発信していて、信頼性があるかどうかを考えることといった「学び方・考え方」について繰り返し指導してきた。






また、4月から定期的（ほぼ月1回のペース）に行ってきた「農村体験学習」では、稲作に関する様々な実体験を重ねることができた。この中で、児童は知識や経験を深めただけでなく、主体的に活動に取り組もうとする態度や、学習を通して接した様々な人への感謝の気持ちをもつことができた。また、農家の仕事に触れることで自己の生き方を考えることにもつながったと考えている。

これまで行ってきた社会科との関連付けを中心とした学習に加え、本単元では家庭科や道徳の時間といった他教科や他領域との内容と関連付けた学習、活動の計画を設定し、より幅広い面から児童の考え方や態度を育てていきたいと考える。

5 単元構成図（全22時間）



6 活動計画（全22時間）

段階	内容（時数）	児童の主な活動	支援（・）と評価（☆）
課題把握 	育てたお米を使って「収穫祭（もち米料理会）」を開こう！		
	1 どんないちりい祭にし たいかメニューを考 えよう。 (2) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">チャーハン！</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">お雑煮！</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">炊き込みご飯！</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">雪見だいふく！</div> </div>	○お米（もち米）を使っ た料理を出し合い、作 りたいものを考える。 ・お家の人に、どん なものが作れるか聞 いてみよう。 ・作りたい献立を決 め、グループを作ろ う。	☆話し合いをもとに、 自分たちの課題を見 付け、解決しようとし ている。（問解） ・家庭科の学習で3つ の食品群について学ん だことを想起させ、課 題を明確に理解でき るよう支援する。
 調査・追 究 	フードパワー調査隊結成！！～食べ物のすごさを見つけよう		
	2 グループごとに、 料理に含まれてい る食品と栄養につ いて調べよう。 (5)	○班ごとに調べるグ ループを作り、本、 新聞、インターネット 、聞き取りなどの手 段で食べ物と栄養素 について調べる。 (活動の例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (○班) ・チャーハンを作 りたい！ →中身は何にし よう？ →それぞれの 栄養を調べよう！ →色々な味付 けのしかたは？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (□班) ・炊き込みご飯 を作ろう！ →どんな材 料を使おう？ →どんな 栄養が入って いるかな？ →地域によ ってどんな 違いが？ </div>	☆グループの友達 と協力し合っ て、調べ方を 考えることが できる。（学 び・考え） ☆調べ方を工夫 しながら、積 極的に調べ活 動に取り組も うとしている。 （主・創） ・3つの食品群 のことも留意 させ、作りたい 献立について 食材の種類、 栄養素、地域 料理とのかか わり等調べる 課題を明確に して学習でき るようにする。
 表 現 	見つけたフードパワーのすごさを伝え合おう！		
	3 グループごとに 調べてわかった ことをまとめ よう。 (5)	○調べたことを、 工夫して模造紙 にまとめる。	☆グループの友達 と協力し合っ て、まとめ方 を考えることが できる。（学 び・考え）

収穫祭の献立を見直してみよう！

<p>5 収穫祭の献立についてもう一度チェックしよう。 (本時2/2)</p>	<p>○笹嶋先生を招いて「フードパワー」発表会をし、調べたことを他班と交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの食品群のうち、どれが少なめだろうか？ ・給食の献立を考えている先生にも聞いてみよう！ ・少しでも栄養バランスがよくなるように、材料を見直したり、もう1品考えたりしてみよう！ 	<p>☆これまでに学習したり調べたりしたことを工夫して発表したり、他者からの意見をもとに献立について考えたりすることができる。(学び・考え)</p> <p>☆収穫祭に向けて、献立の見直しに積極的に取り組もうとする。(主・創)</p>
---	--	--

学んだことを生かして、収穫祭を開こう！！

<p>6 収穫祭を開くために必要な準備をしよう。(3)</p>	<p>○収穫祭に向けて、具体的な計画を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まった料理の調理の仕方を調べよう。 ・料理に詳しい他の人や先生にも聞いてみよう。 ・グループごとに役割分担を考えよう。 ・収穫祭だから、農家の佐藤さんも招待しよう！ 	<p>☆収穫祭に向けて、学んだことを生かして積極的に取り組もうとする気持ちをもつ。(主・創)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要なものや役割分担などをグループごとにまとめることで、見通しをもって収穫祭に取り組めるようにする。
<p>7 学習したことをもとに調理し、収穫祭を開こう。(3)</p>	<p>→招待状を書いて出そう！</p> <p>○実際に調理し、みんなで収穫祭をする。</p>	

<p>8 フードパワーの学習を振り返ろう。(2)</p>	<p>○学習の成果と課題を振り返る。</p> <p>○これからの自分たちの生活に生かしていけることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食を残さず食べよう！ ・地元で作られるものをいっぱい探そう！ 	<p>☆調べたことや学んだこと、調理活動等によって得られた経験を普段の食生活に生かしていこうとする気持ちをもつ。(生き方)</p>
------------------------------	--	---

これからも、栄養のことを考えて食事をしていこう！
食べ物と、作っている人たちに感謝して食べよう！

整理・深化






まとめ

7 本時の実際

(1) 本時の目標

- これまでに学習したり調べたりしたことを工夫して発表したり，他者からの意見をもとに献立について考えたりすることができる。(学び方・考え方)
- 収穫祭に向けて，献立の見直しに積極的に取り組もうとする。(主体的・創造的態度)

(2) 本時の展開 (2時間扱い…本時：2時間目)

学 習 活 動	児童の活動の様子と教師のはたらきかけ	支援(・)と評価(☆)の実際
<p>1 これまでの学習の振り返り(5分)</p> <p>2 班で考えた収穫祭の料理について発表し，話し合う。(15分)</p> <p>私たちは，すまし仕立てのお雑煮を作ります!</p>  <p>料理のいろどりを考えて，野菜を入れてみてはどうでしょうか。</p>	<p style="text-align: center;">考えた料理と栄養について発表し，自分たちの献立を見直そう!</p> <p>○班ごとに，調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理名と必要な材料について ・料理に含まれている栄養について ・料理について調べたことについて  <ul style="list-style-type: none"> ・料理の工夫されているところ ・入っている栄養 ・加えたらよいと思う材料 <p style="text-align: center;">この3点に注意して話を聞こう!</p> <p>○発表内容について，質問や意見を言う。</p>  <p>お雑煮は，栄養のバランスがよい料理だなと思いました。</p> <p>○笹嶋先生にコメントをいただく。</p>  	<p>・発表する時のポイントを明確にし，スムーズに発表できるようにした。</p> <p>お雑煮にはたくさん野菜が入っていて，緑の栄養も多いということがわかりました。</p> <p>☆学習したことを，他者に伝えようと工夫して発表することができているか。(学び方・考え方)</p> <p>・笹嶋先生には，一つの班の発表が終わるごとに，栄養面や献立改善のヒントなどの面から話していただいた。</p> <p>考えた料理を主菜にして，もう1品あるとよいですね。</p>

3 考えた料理について、改善の話し合いをする。

(20分)



どんな副菜があると
いいかなあ？

雪見だいふくはデザートだから、メインのご飯を考えよう！



○班ごとに、考えた献立の栄養バランスをよくするために、どうすればよいか話し合う。



あんかけの具の中味
を考え直そうよ。



お雑煮のいろどりを
よくするには…。



笹嶋先生に、もう一回ヒントを
もらおう！

○改善した献立を、班ごとに発表する。

- ・赤と緑の栄養を多くしました。
- ・あんかけに白菜を入れることにしました。
- ・チャーハンに加えて、和え物を作ります。
- ・お雑煮と、デザートを作ろうと思います。
- ・おこわを作って、雪見だいふくをデザートにします。
- ・お雑煮のトッピングにいろいろな野菜を用意します。

・3つの栄養を必ずバランスよく入れることにこだわらず、少しでも改善することを目的に話し合いをさせた。

☆他者からの意見などを参考に、献立を改善しようと考えてきているか。(学び方・考え方)

☆収穫祭に向けて学んだことを生かして話し合い、積極的に取り組む気持ちをもっているか。(主体的・創造的態度)

3 本時のまとめをし、次時への意欲を高める。(5分)

○本時の学習を振り返り、次時への意欲をもつ。

どの班も、献立を見直してとってもおいしそうメニューを考えられましたね！

調理の仕方や役割分担などについて、これから計画を立てて進めていこう。



・笹嶋先生に本時の成果を評価していただき、学習の達成感と今後への意欲を感じられるようにした。



献立の栄養バランスがよくなったぞ！
おいしく食べられる収穫祭に向けてがんばろう！

8 成果と課題

(1) 地域環境を生かした体験活動の工夫

[成果]

- ・自分たちが栽培にかかわったもち米の料理を考えるという学習活動が明確に示されたため、興味・関心をもって学習に取り組むことができた。本時においても、献立を改善する話し合いが、どの班においても活発に行われていた。
- ・事後の収穫祭では、話し合っただけで決めたことをもとに調理を行い、生産者を招いて一緒においしく食べたことを通して、地域のよさを感じることができた。

[課題]

- ・献立を考えて調理を行う活動では、おいしい料理を作ることだけでなく、「地域の食材」を使っていることをもっと意識付けられればよかった。

学習を振り返って～児童の感想から～

- ・お米は味がしみていておいしかった。佐藤さんに感謝したいと思います。
- ・自分たちでついたおもちはすごくおいしかったです。
- ・農家の仕事は大変だとわかったし、もみすりをするときの工夫も見付けられたし、収穫祭も楽しかった。
- ・全部手作業だったので、大変でした。
- ・普段できない体験ができてよかった。
- ・面白かったし、イネが実ってよかったと思った。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・栄養教諭の専門的な観点からの指導、助言をいただくことができ、話し合い活動の内容を深めることができた。
- ・グループの人数が活動の内容に適していて、一人一人が課題を明確にして学習に取り組むことができた。興味・関心を高めることができた。

[課題]

- ・班ごとに考えた献立を発表し合ってから、他班からの発言が少なかった。発表をするとき、聞くときの視点をもっと精選する必要があった。

学習を振り返って～児童の感想から～

- ・班の4人でまじめに取り組めてよかった。
- ・班全員が料理を努力して作っていたと思います。
- ・自分たちで作ったお米で作った料理は、とてもおいしかった。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

[成果]

- ・栄養や調理について調べる学習は家庭科の内容と直接関係していたので、本単元の学習を通して関連付けた指導を行うことができた。
- ・社会科で学習した「食料生産にはげむ人々の工夫や努力」、道徳で考えを深めた「働く

ことの意義」をもとに、収穫祭では生産者への感謝の気持ちをもって活動することができた。

- ・収穫祭での調理では家庭科で未習の内容もあったが、資料や図書を参考にしたり、保護者の協力を得たりして学習を進めることができた。

[課題]

- ・本時の学習の中では、収穫したお米や生産者への感謝の気持ちをもって献立を考えるところまでは至らなかった。
- ・学級活動で考えを深めたり話し合ったりする場面で、本単元の学びと関連付けて指導していく必要がある。

学習を振り返って～児童の感想から～

- ・農家の佐藤さんは、自分たちの食べる米をがんばって作ってくれているんだと思った。
- ・農家の佐藤さんたちのもち米はおいしかったです。
- ・もっとよくかんで、栄養のバランスを考えながら食べるようにしたいです。
- ・栄養のバランスを考えて、もっと料理を試してみたい。
- ・3色の食べ物全てを、食べるようにしたいです。
- ・朝食を毎日食べる。できるだけ赤・黄・緑をバランスよく食べる。間食をとりすぎない。

IV 成果と課題



1 道徳の時間の指導に関して

2 特別活動の指導に関して

3 総合的な学習の時間の指導に関して

研究の成果と課題について

今年度は3か年継続研究のまとめの年度であり、過去2年間の成果や課題を踏まえながら、これまでの研究の集大成とすべく取組を進めてきた。「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～」の研究主題のもと、特に「他領域との関連付けを図った指導の工夫」に重点を置き取り組んできた研究の成果と課題は以下の通りである。

視点1 道徳の時間の指導に関して

今年度の重点：他領域との関連付けを図りながら、道徳の時間において道徳的価値の深化・補充・統合を目指す指導の工夫

成果

道徳の時間に用いる資料については、内容や活用媒体、提示の方法など様々な面から工夫することが大切である。今年度の検証授業においては、導入段階で絵を活用し子供のイメージを豊かにした上で題材の文章を読み、再び絵を用いることで課題の自己化を図るといった工夫がなされた。また、子供たちが自然に考えを深められるよう実生活で起こり得る題材を用いた上で役割演技を行うなど、資料の活用と指導方法の工夫を関連させた学習活動の重要性も確認できた。このような活動を行う中で自己理解の深まりが見られ、自己の在り方や生き方を追求しようとする態度につながった。

道徳の時間は心の教育の要となるものであり、年間を通じた指導計画の中で他領域の学習活動との関連性を明確にすることが重要である。そのことが、全教育活動における道徳教育実践の基盤を形成することにつながる。このような考えに基づき、今年度の研究においては、年間指導計画及び単元の指導計画の中に道徳的価値の関連性を位置付けることの意義について検証した。結果、道徳の時間以外の学習活動においても、道徳的価値の育成を意識した指導が実践されると同時に、それを道徳の時間の指導に反映させることでさらに効果的な指導が行えるとの結論に至った。

課題

道徳の時間における資料の活用については、提示の方法やタイミングなどを十分吟味することが求められる。それは、子供たちが資料の内容を正しく理解し、状況を鮮明に思い描いたり、人物の心情に深く寄り添ったりするために不可欠な工夫である。資料を配付し文字を読ませた上で子供たちが自ら内容を理解できるよう支援したり、あるいは資料を配付せず、教師の音読によって大まかな内容を捉えさせた上で要点を焦点化して確認したりと、授業のねらいや子供たちの発達段階に応じて、より効果的な手段を模索する必要がある。

また、役割演技などの活動を取り入れ、子供たちの意欲の高まりが予想される場合、その活動を行う意義を教師が常に念頭に置き、最終的に授業のねらいを達成できるよう子供たちを導くことが重要である。子供たちが活動の楽しさに引かれ積極的に取り組むことは大切であるが、それで終わることなく、自らを振り返り実践への意欲化に結び付けなければならない。そこで子供たちが意識化した道徳的価値が、特別活動や総合的な学習の時間などにおいて発揮されるよう活動を工夫し、その過程を見取った上でさらに道徳性を高められるよう支援することが重要である。

視点2 特別活動の指導に関して

今年度の重点：他領域との関連付けを図り、特別活動におけるグループ活動を効果的に行うことで道徳的実践力を高める指導の工夫

成果

特別活動のねらいは、集団活動を通して集団の一員としての望ましい態度を育成することにある。今年度の検証授業はこの点を踏まえ、年間指導計画を基盤としながらもその時点における学級の実態を詳細に把握し、指導に生かすよう努めた。集団における人間関係やコミュニケーションの重要性を理解させ、人と助け合いながら生きていくことの大切さについて考えを深めさせることができた。それを総合的な学習の時間に行われる職場体験学習と関連付けることで、より効果的な指導を目指した。また、実践的な態度の育成を図るためにロールプレイを取り入れ、ワークシートを活用しながら課題を具体的かつ明確にすることで、学習効果を高めることができた。このように、集団活動の特性を生かした上で指導方法を工夫し、さらに他領域との関連付けを図ることで、一過性の活動として終わらせず、年間を通じ子供たちの成長に相乗効果をもたらすよう取り組むことが重要である。

課題

特別活動において子供たちが学び体験した内容は、その後のそれぞれの生活に生かされることが大切である。ロールプレイなどの活動で特定の状況設定のもと考えを深め、具体的な方法や実践的な態度を学んだ後に、それが一般化され自主的な取組として発揮されることが求められる。そのためには、授業の終末における教師の総括的指導や学校生活のあらゆる場面での見取り、支援などが重要である。また、道徳の時間において関連する道徳的価値をさらに深めたり、総合的な学習の時間において子供たちの学びが生かされるよう様々な活動を設定し指導する必要がある。それらを効果的に関連付け、継続して行うことによって、社会生活において自らの理想を実現する力、未来を拓く力が養われる。

視点3 総合的な学習の時間の指導に関して

今年度の重点：他領域との関連付けを図った体験活動を行う中で、自己理解を深め、自らの理想を実現しようとする態度を養う指導の工夫

成果

子供たちの道徳性の育成は、全教育活動において行われるべきであり、総合的な学習の時間でも体験活動や探究活動を通して、豊かな心をはぐくむことが求められている。今年度の研究では、その点について他領域との関連付けをより明確にし、検証授業において成果を見出すべく取組を進めた。今日的な課題を踏まえ食育をテーマに掲げ、日常の観察やアンケート調査の実施などにより、子供たちの実態を的確に把握した上で検証授業を行った。そのことにより、感謝の心や働くことの意義、自然を愛する精神などの道徳的価値について、年間を通じ様々な領域や教科において関連付けを図った指導が実践され、子供たちの道徳性を深めることができた。

また、地域の人々や施設の理解と協力のもとに活動の場を広げ、子供たちに豊かな体験活動に取り組みさせることができ、地域との連携や体験活動の重要性について確認することができた。指導体制の観点からも、専門的知識を有した指導者が授業実践にかかわりティーム・ティーチングを行うことで、子供たちの意欲の高まり、思考の深まりが見られるなど、指導体制・方法を工夫することの大切さが検証された。

課題

総合的な学習の時間における活動は、その内容が多岐にわたり他教科や他領域の学習と密接に関連することが多い。今年度の検証授業で取り組まれた食育というテーマについても、家庭科で扱われる内容と重複する点がある。その際に重要なのは、各活動における目的を明確にし関連付けを図ることである。総合的な学習の時間に関しては、知識の習得に終始することなく、他教科や他領域で身に付けた知識や技能を活用し、思考力や表現力、判断力などを養うよう指導を進める必要がある。

また、総合的な学習の時間においても道德性を養うことは大切であり、体験活動や話し合い活動、発表活動などの各場面で、どのような道德的価値の育成を目指すかを意識し指導を行うことで、より豊かな心の教育の実践に結び付くと考えられる。

参考文献リスト

- ・学習指導要領（平成10年12月告示）
- ・新学習指導要領（平成20年3月告示）
- ・釧路教育研究所 研究紀要 第57集，第58集，第59集
- ・十勝教育研究所 研究紀要 No.198，No.200
- ・石狩教育研究所 研究紀要 第185号
- ・後志教育研修センター 研究紀要 No.73
- ・「第15回 北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 大会紀要」
- ・「平成16年度 研究紀要 苫前町立力昼小学校」
- ・「留萌管内生活科・総合的な学習研究会 第4回実践交流会 講演資料」
- ・「小学校学習指導要領解説特別活動編」 文部科学省
- ・「小学校学習指導要領の展開」 宮川八岐編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開道德編」 七條正典編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開特別活動編」 森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開総合的学習編」 山極隆編著 明治図書
- ・「学級活動の年間指導計画と展開小学校低学年」 宇留田敬一編 明治図書
- ・「学習活動の指導過程小学校低学年」 成田國英編 明治図書
- ・「小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案」 児島邦宏・三村隆男編 明治図書
- ・「道德と総合的学習で進める心の教育」 諸富祥彦・尾高正浩編著 明治図書
- ・「総合的な学習に活かすポートフォリオがよくわかる本」 小田勝己 学事出版
- ・「中学校『総合的な学習の時間』研究の手引」 児島邦宏・佐野金吾編 明治図書
- ・「中学校特別活動＋総合的学習の展開プラン集」 渡部邦雄編 明治図書
- ・「平成20年版中学校新教育課程教科・領域の改訂解説」 安彦忠彦編 明治図書
- ・「教育展望」2003.7・8
- ・「指導と評価」2006.5，2008.9
- ・「特別活動研究」2006.3，2006.12
- ・「中等教育資料」2008.11

道徳教育に関する アンケート調査の結果と考察



1 実施要項

2 配布及び回収について

3 結果と考察

1 実施要項

1 目的

平成18年度より取り組んできた「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究」に関するアンケートを実施し、留萌管内小中学校の実情や教員の考えを把握した上で、研究の成果と課題を明らかにし、今後の研究推進のための資料として役立てる。

2 調査方法の概要

- (1) 留萌管内全小中学校の全教員を対象に調査を行う。
- (2) 勤務校種ごとに調査結果の集計を行い、比較分析することで発達段階に応じた相違点等を明らかにする。
- (3) 平成18年度に実施したアンケートとも照らし合わせ、意義ある考察を提示できるよう努める。

2 配付及び回収について

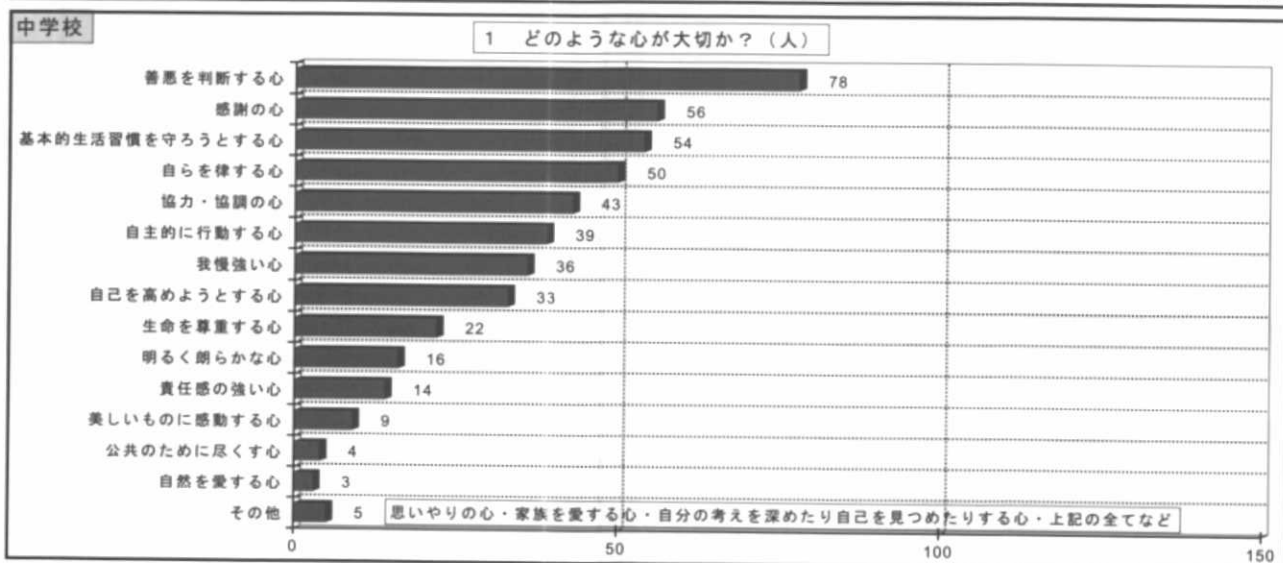
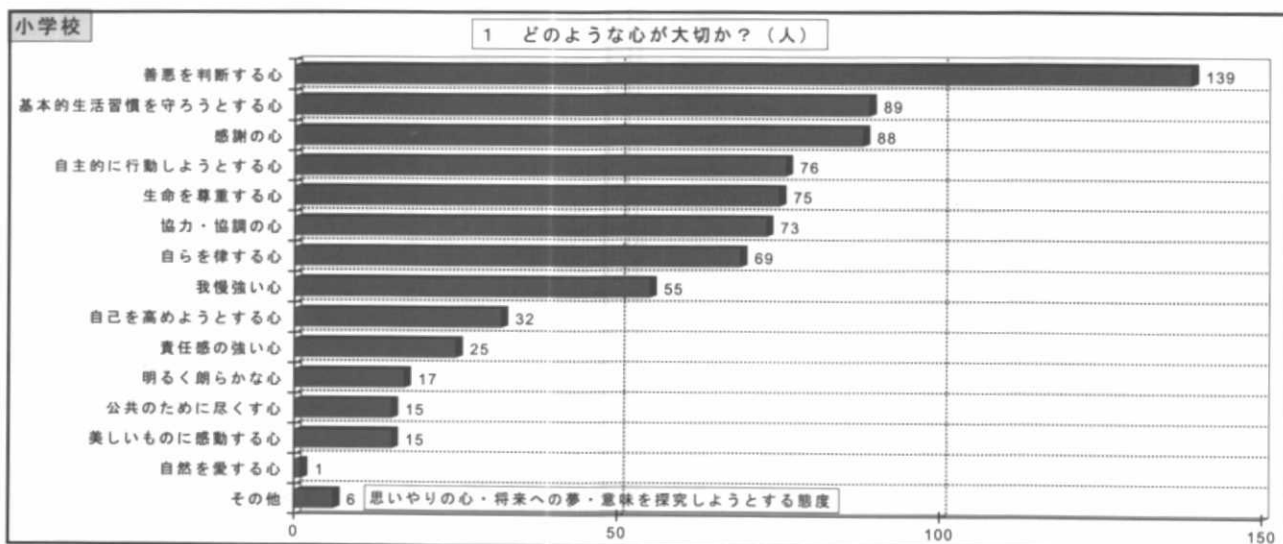
	配布数（枚）	回収数（枚）	回収率（％）
小学校	313	267	85
中学校	224	155	69

3 結果と考察

～御協力いただいたアンケートの主な設問の集計結果と考察を、以下に記します。～

1 過去3年間程度の指導を振り返り、子供たちに対しどのような心を育てることが大切だと考えますか。下記の中から1～3つ選び、番号でお答えください。選択肢以外にお答えがある場合は、「⑮その他」に御記入ください。

- ① 基本的な生活習慣を守ろうとする心 ② 善悪を判断する心
③ 自主的に行動しようとする心 ④ 我慢強い心 ⑤ 責任感の強い心
⑥ 自らを律する心 ⑦ 明るく朗らかな心 ⑧ 協力・協調の心
⑨ 公共のために尽くす心 ⑩ 自己を高めようとする心 ⑪ 自然を愛する心
⑫ 生命を尊重する心 ⑬ 美しいものに感動する心 ⑭ 感謝の心
⑮ その他（)



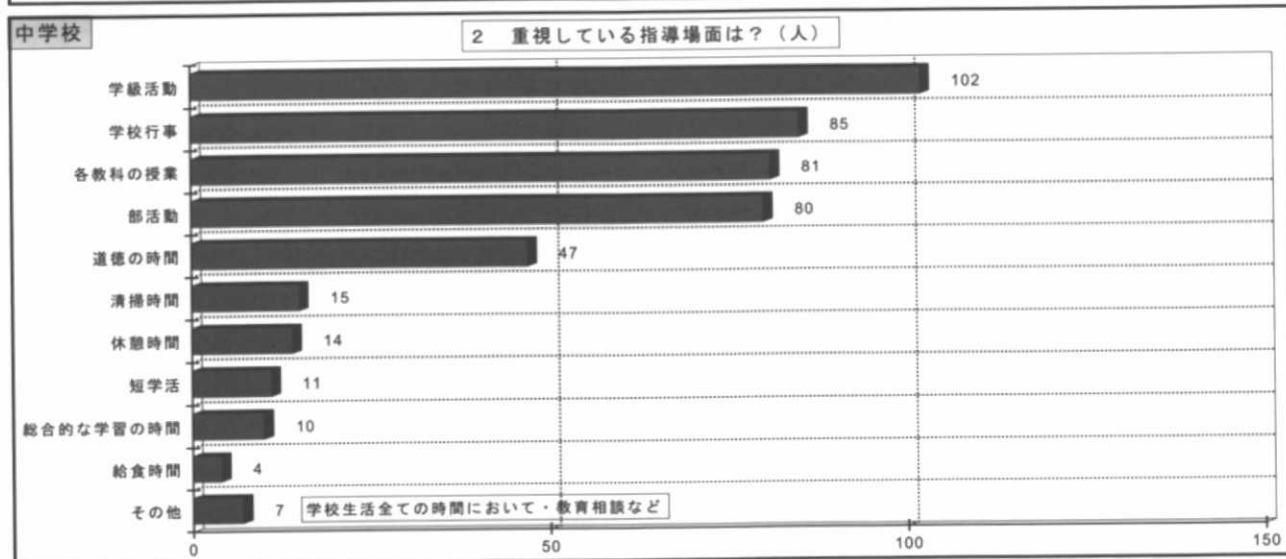
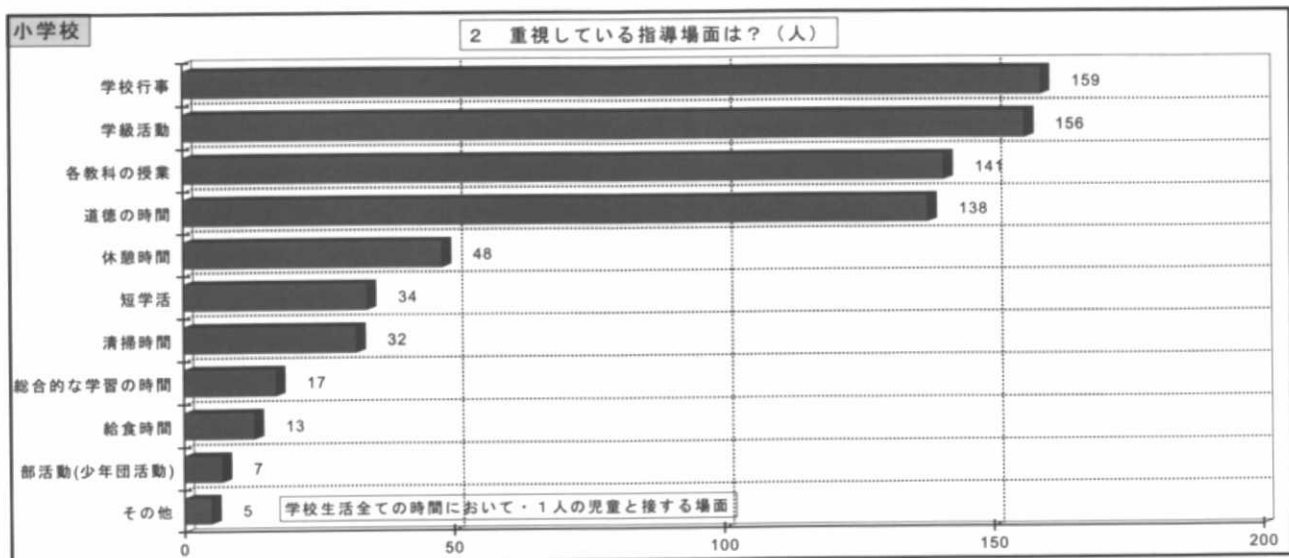
【考察】

小学校・中学校共に、最も回答が多かったのは「善悪を判断する心」で、2年前の調査結果と同様である。少年犯罪の低年齢化やいじめ問題などの影響も考えられるが、「善悪を判断する心」が子供たちの中に育っていないと結論付けるよりも、「善悪を判断する心」を子供たちに身に付けさせることの大切さ、普遍性を示していると考えの方が適切であると思われる。特に小学校における回答数は群を抜いており、成長過程の早い段階でそうした心をはぐくむことの重要性を、教員が強く感じていると考察される。

他の項目についても2年前と同様の傾向が見られ、「感謝の心」や「自らを律する心」などは変わらず回答数が多かった。一方、前回に比べ「基本的な生活習慣を守る心」が大切とする回答が非常に多く見られた。知・徳・体のバランスについては、その重要性が以前にも増して指摘されており、学校現場においてそれが認知されていることを示していると考えられる。規則正しい生活リズムや十分な睡眠量、バランスのとれた食事などの生活習慣の大切さを子供たちに伝え、身に付けさせるためには家庭の協力が不可欠である。今年度の研究においても、総合的な学習の時間の一環として食育に関する検証授業を行ったが、今後そのような取組を家庭や地域と連携しながら進めていくことが重要であると考えられる。

2 学校教育において心の成長を促すために、特に重視しているのはどのような指導場面ですか。次の中から1～3つ選び、番号でお答えください。選択肢以外にお答えがある場合は、「⑪その他」に御記入ください。

- ①各教科の授業 ②学級活動 ③道徳の時間 ④学校行事 ⑤部活動
 ⑥休憩時間 ⑦給食時間 ⑧清掃時間 ⑨総合的な学習の時間 ⑩短学活
 ⑪その他()



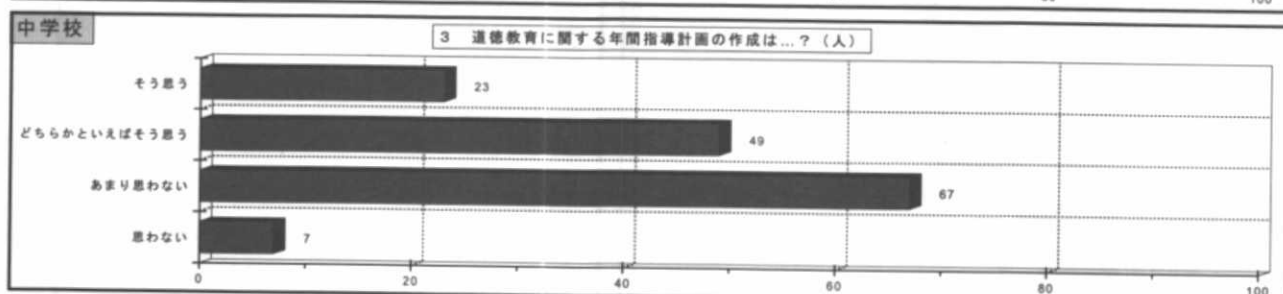
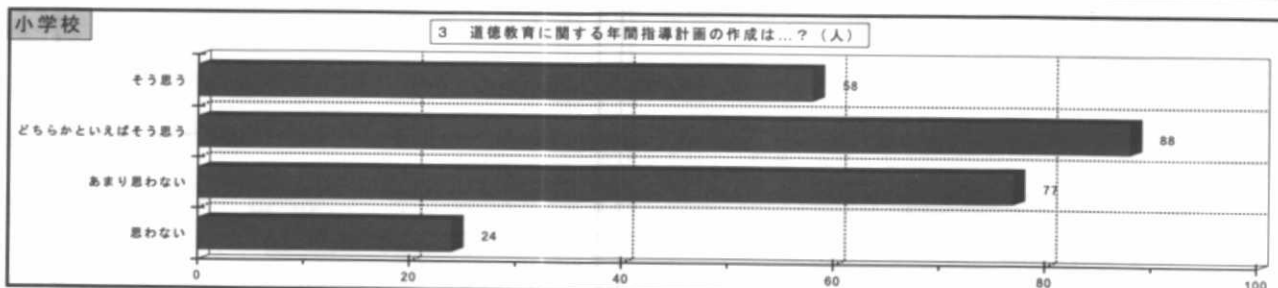
【考察】

回答として多く挙げられているのは、「学校行事」「学級活動」「各教科の授業」であり、小学校・中学校に共通している。このことは、実際に他の子供と接し共に活動する場面において、心の成長が促されると考える教員の多さを表しており、集団活動や体験活動の重要性を示している。「総合的な学習の時間」とする回答も前回の調査に比較して増え、様々な場面で心の教育に取り組もうとする教員の姿勢が窺える。

一方、前回の調査同様、中学校においては「道徳の時間」を重視する回答はそれほど多くなかった。他の活動ではぐくまれた道徳的価値を補充・深化・統合する意味でも、道徳の時間の充実が大切であると考えられる。

3 道徳教育に関して、道徳の時間と他領域・他教科との関連付けを意識した年間指導計画の作成を進めていますか。

- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまり思わない ④思わない



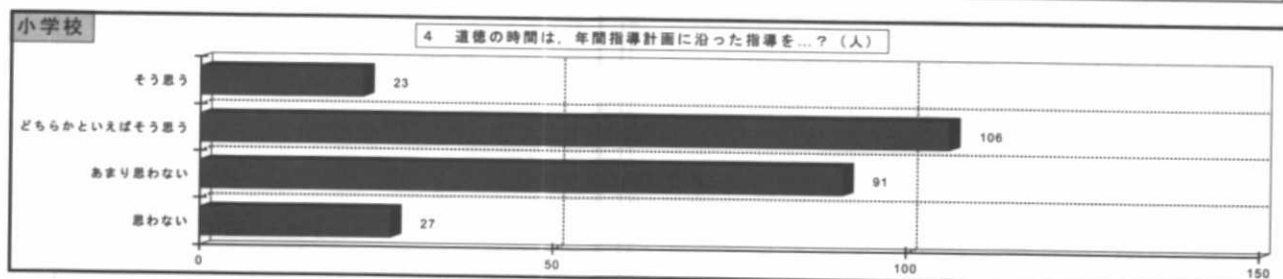
【考察】

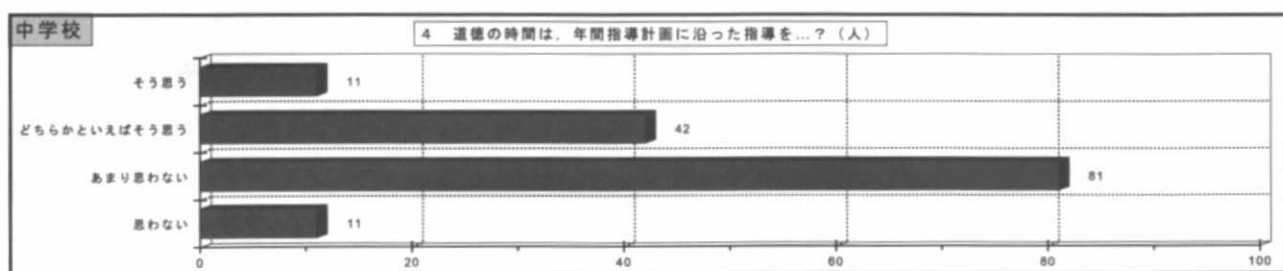
新たな学習指導要領において、全教科・領域の「指導計画の作成と内容の取扱い」の配慮事項として、道徳教育との関連が明示されている。このような状況の中、小学校において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とする回答が全体の約6割を占めたことは、全教育活動において道徳教育に取り組むことの重要性が改めて確認され、そのさらなる充実に向けて方策が講じられつつあることを示していると考えられる。

中学校においても、「現在推進中」「見直しを検討中」などといった回答が見られたものの、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は全体の約半数であった。教科担当制である中学校においては、取り組みづらい点も考えられるが、特別活動や総合的な学習の時間などとの関連付けを始めとして、道徳教育の指導計画を充実させることが大切である。

4 道徳の時間について、おおむね年間指導計画に沿った授業を実施できていると思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまり思わない ④思わない





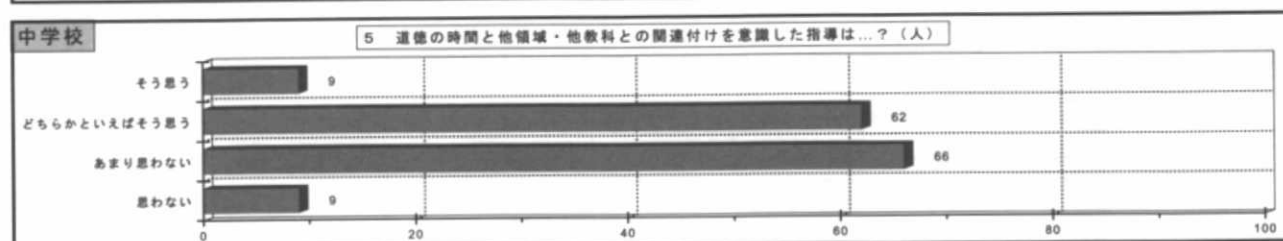
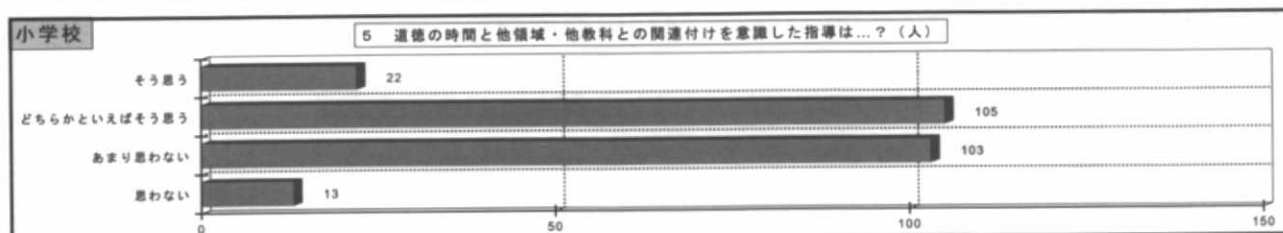
【考察】

道徳の時間における年間指導に沿った授業の実施について、肯定的な回答は小学校で約5割、中学校においては肯定的な回答が約3割で、およそ3分の2の教員が否定的な見解を示した。その大きな理由は、日々変容する子供たちの実態に応じた効果的な指導を行うために、結果として計画とは異なる取組がなされていることと考えられる。同時に、時代や社会の情勢の変化を的確に捉え、道徳教育の全体計画や学級における指導計画を見直し、随時年間指導計画に修正を加えることで、系統的な道徳教育を実践することも重要である。

一方で、設問3の年間指導計画の作成に関する調査結果と併せ考えると、年間指導計画を見直し、より幅広い道徳教育に対応できるよう計画を充実させることで、見通しをもった効果的な道徳教育を行うことが求められると考察される。

5 道徳教育に関して、道徳の時間と他領域・他教科との関連付けを意識した授業を実施できていると思いますか。(体験的な活動の前後に、その活動内容と関連付けた「道徳の時間」の授業を実施するなど)

- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまり思わない ④思わない

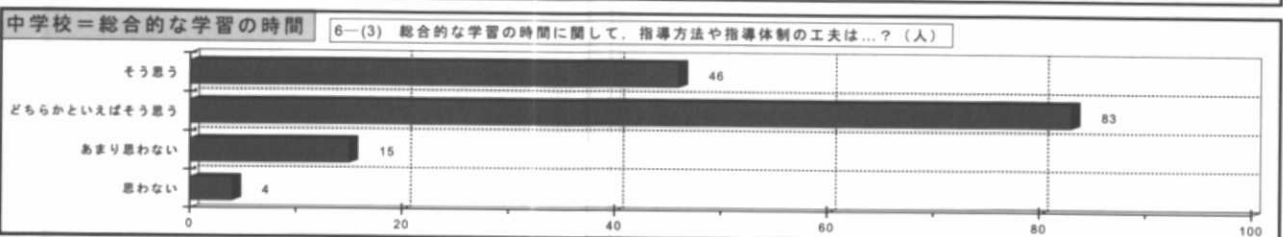
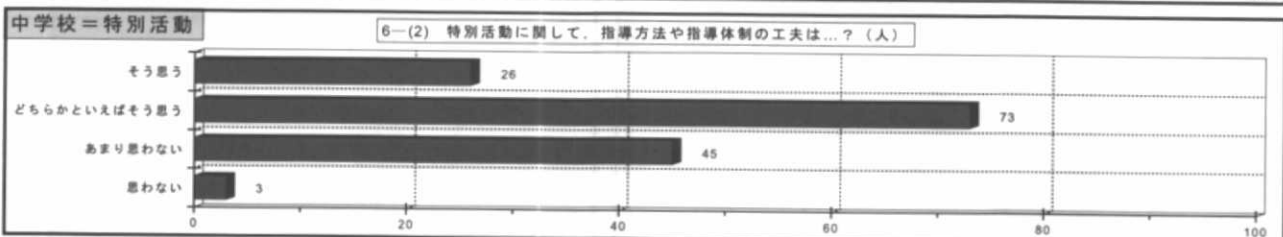
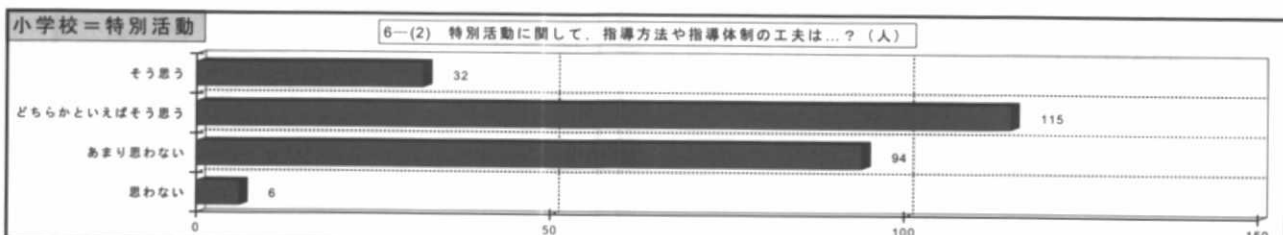
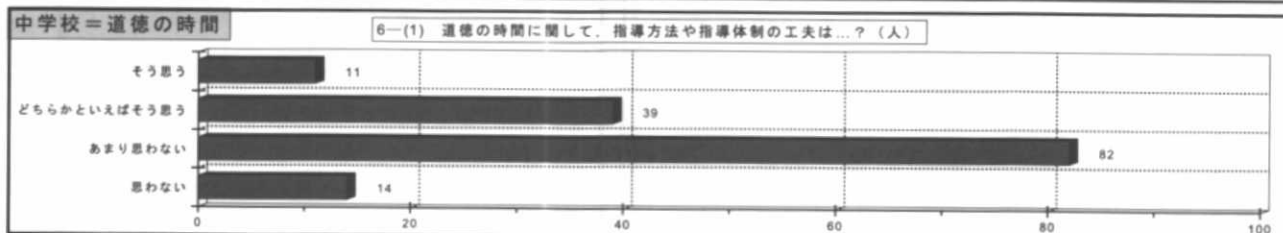
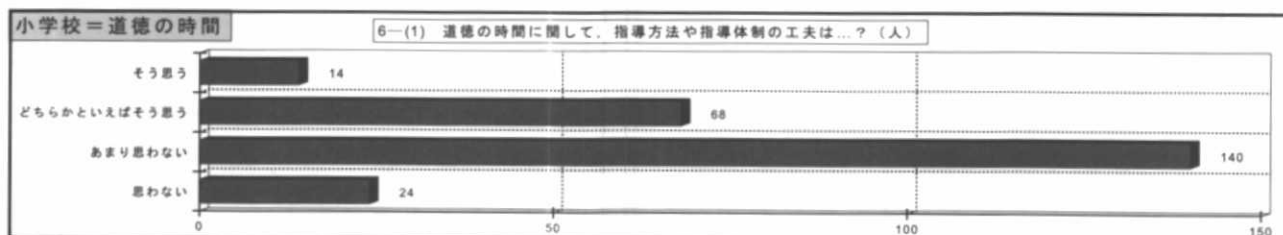


【考察】

道徳の時間と他領域・他教科を関連付けた授業の実践については、小学校・中学校共に、肯定的な回答と否定的な回答がそれぞれおよそ半数の割合を示した。このことは、設問3の考察でも述べた通り、全教育活動における道徳教育の充実の重要性が認識されつつあることを表していると考えられる。今年度、本研究所では「他領域との関連付けを図った指導の工夫」を重点として研究を推進した。道徳教育の変遷期において、今後も理論・実践研究や研修講座などを通じて、管内教育の発展に努めたい。

6 道徳の時間や特別活動，総合的な学習の時間に関して，指導方法や指導体制を工夫できていると思いますか。（ゲストティーチャーの活用やT T体制の実施，グループ活動の活用やロールプレイなど）

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまり思わない ④思わない



【考察】

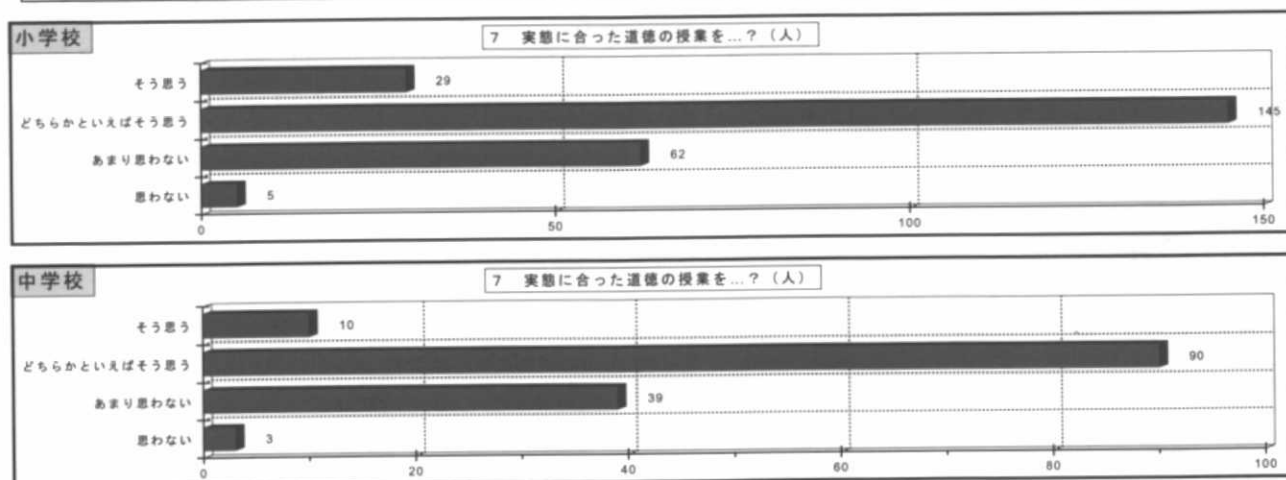
各領域における指導方法や指導体制の工夫に関して、肯定的回答が顕著だったのは総合的な学習の時間における指導である。小学校で約8割、中学校においては9割近い教員が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている。中学校においては、学年単位でTT体制のもと指導を行う場合が多く、それに伴い様々な指導方法が取り入れられ、活動の充実が図られていると考えられる。小学校においても、管内各地域の特色を生かした多様な活動が行われており、ゲストティーチャーを迎えたり調査活動や発表活動の指導方法を工夫したりするなど、取組の成果が調査結果に表れたと考えられる。

特別活動についても肯定的回答が過半数を占めた。本研究所においても、生徒会活動に結び付けた活動の工夫やロールプレイの実践など、指導の工夫について研究を進めてきた経緯があり、管内各校で集団活動を通じ自主的・実践的態度を養うべく、教員の意欲的な実践が行われていると思われる。

道徳の時間については、肯定的な回答がそれほど多くなかったが、人物の心情に深く共感したり、じっくりと自己対話に取り組んだりするなど、授業の特性が結果に表れたと考えられる。実際の指導を行う指導者は学級担任である場合がほとんどであるが、授業計画を構築する段階で資料を共有したり、効果的な授業の進め方を交流したりするなど、多くの教員がかかわる中で道徳の時間の充実に努めることが大切であると考えられる。

7 児童・生徒の実態に合った道徳の時間の授業を展開できていると思いますか。

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまり思わない ④思わない

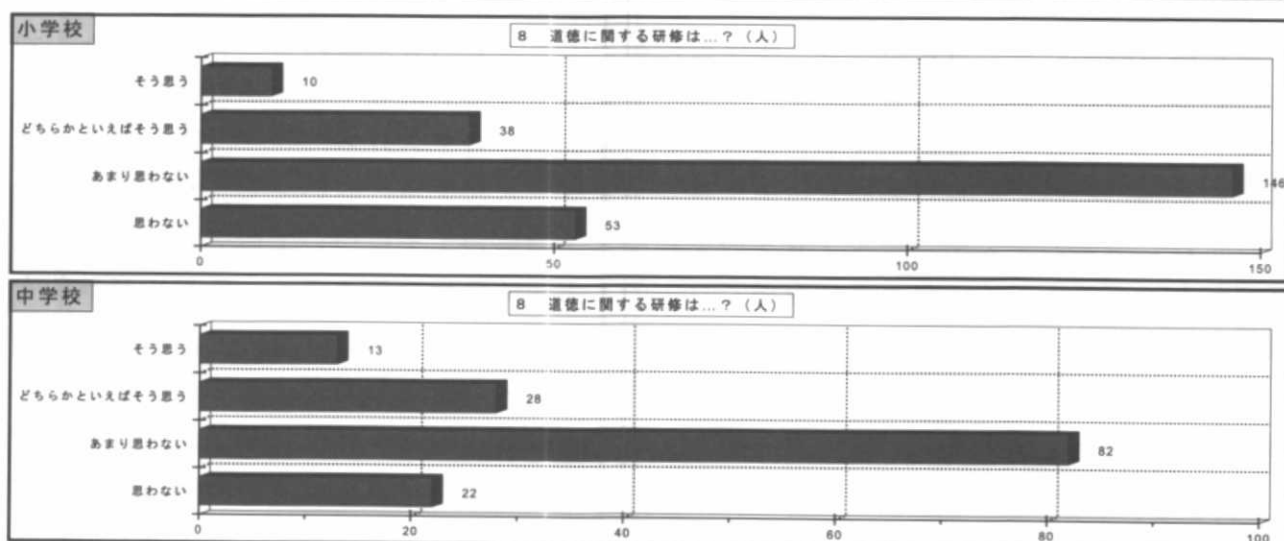


【考察】

小学校・中学校共に肯定的回答が約7割を占めたことから、子供たちの実態を重視した道徳の時間の授業が実践されていることが窺える。一方で「あまり思わない」「思わない」との回答も相当数見られた。心の成長の変化を見取るためには長期的な取組が必要であり、そのため指導の成果が実感しづらいことや、子供の実態の多様化、あるいは道徳の時間の指導について教員が基本的な悩みを抱えている可能性などが理由として考えられる。設問6の考察でも述べた通り、道徳の時間の指導について管内の教育現場で生かされる研究の推進が求められていると思われる。

8 道徳の授業の指導内容や指導方法などについて、校内・校外において研修を行うことができていると思いますか。

① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ あまり思わない ④ 思わない



【考察】

道徳の授業に関する研修への取組については、小学校で約7割、中学校で約8割の教員が否定的回答を示している。研修時間の確保の困難さが大きな要因と考えられ、道徳の授業に限らず研修全般にかかわる課題であると考えられる。また、教員の道徳教育に関する研修意欲の低下もこの結果の一因と考えられる。本研究所においても、数年来道徳教育に関する研修講座を行っており、一定の成果は得られていると考えるが、意欲があるにもかかわらず多忙さゆえに教員が参加できない実情もある。今後は、さらに研究・研修の在り方を見直し、負担を感じさせることなく管内の教育現場に生かされる取組を推進できるよう努めたい。

4 最後に

今回のアンケート調査に御理解・御協力いただき、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。管内の教育発展に貢献すべく行った本調査において、前回と比べても高い回収率が示されたことは、各校の先生方の教育に対する関心や情熱の表れと考えられます。

先に述べた調査結果の概要と考察を振り返ると、心の教育の重要性が改めて感じられます。学校教育のあらゆる場面で心の成長を促すことの大切さ、その基盤となる道徳教育の全体計画を充実させることの重要性などが、今回の調査結果から明らかとなりました。またこのことは、管内の先生方が高い志のもと日々の教育活動に励んでいることをも示しています。

本研究所において3年間取り組んできた「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究」が、管内の教育の充実に貢献できたことは幸いであり、今後も現場に生かされる研究を推進できるよう努めたいと考えます。

研究協力校

留萌市立沖見小学校（共同研究担当：鹿島嘉節）

天塩町立天塩中学校（共同研究担当：初山明久）

研究協力員

梶倫之（幌延町立幌延小学校）

中村繁仁（天塩町立天塩小学校）

加藤晃壺（小平町立鬼鹿中学校）

石垣友和（留萌市立港南中学校）

留萌管内教育研究所

所長 檜森博仁

主任研究員 西條直志

研究員 安居和

中村弘樹

山形勉

滝本都子

後藤幸樹

寺澤寛

今年度は、3か年継続研究のまとめの年として、「道徳の時間の指導に関して」「特別活動の指導に関して」「総合的な学習の時間の指導に関して」という3つの研究の視点について、研究を進めてまいりました。前述の3つの視点に関し重点化を図り、「心に響く教材・教具の開発」「集団活動、体験活動の工夫」「指導体制・方法の工夫」「他領域との関連付けを図った指導の工夫」を研究の柱に据え、授業実践を行い、研究協議を重ね、その成果や課題を『研究紀要』第14号としてまとめることができました。

これもひとえに、共同研究推進のために御尽力いただいた研究協力校と研究協力員の皆様方、そして、今年度検証授業を提供してくださった、研究協力校の沖見小学校、研究協力員所属校である天塩小学校、港南中学校の御理解と御協力によるものと心より感謝申し上げます。また、紀要発行にあたり、各関係機関にも多大なお力添えをいただきましたことに対しましても、重ねて御礼申し上げます。

本書を多くの先生方に読んでいただき、校内研究や個人研修、日常の教育実践において御活用いただければ幸いです。

来年度は、3年次研究の成果と課題を踏まえた上で、新たな研究に取り組み、多くの成果が得られるように努力してまいります。今後とも当研究所に対しまして、変わらぬ御指導、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成21年3月

研究紀要 第14号

未来を^{ひら}拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

発行日 平成21年3月24日

発行所 留萌管内教育研究所

〒077-0033 留萌市見晴町2丁目27番地

Tel・Fax (0164) 42-2635 (直)

E-mail ruken@educet.plala.or.jp

U R L <http://academic3.plala.or.jp/ruken/>

発行者 所長 檜 森 博 仁

印刷所 はくおう印刷株式会社

〒077-0044 留萌市錦町2丁目3-20

Tel (0164) 42-1111